KORG DIGITAL PIANO

CONCERT

コルグ デジタル・ピアノ コンサート

取扱説明書

このたびはC-660をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

KORG

Ⓙ ②

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意 感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。
デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。
小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  ○電源コードやプラグが破損したとき
  ○異物が内部に入ったとき
  ○製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、サービス・センターへ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管は しない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**
- **本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。**

- **電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていませんので、製品を使用しないときは電源プラグをコンセントから外してください。**

- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒する危険性があります。

- **キー・カバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。**

付属のスタンドについて

- **取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方法」に従って確実に設置する。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて

- **ピアノの演奏用にのみ使用する。**
  イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。

- **2人以上で腰掛けない。**
  付属のイスは1人用です。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはデータファイラー（記憶装置）などにセーブしておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱い説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[　]で括っています。

（☞p.■■）:参照ページを表します。

 :使用時の注意を表します。

MeMo :使用時のヒントなどの内容を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

目次

おもな特長

● グランド・ピアノのような弾き心地

低音部は重めで高音部は軽めといった、グランド・ピアノのように音域によって鍵盤の重量感を再現し、演奏者のタッチを損なわない連打性能を実現したRH3(リアル・ウエイテッド・ハンマー・アクション3)鍵盤を採用しています。

● 多彩な音色 .... (☞p.13、25、26)

コンサートグランド・ピアノ音色をはじめとした、コルグ独自の高品位な8種類の音色が選択でき、スプリット時に使用するベースを加えた合計9種類の音色を内蔵しています。レイヤー機能やスプリット機能で、同時に2つの音色を組み合わせた演奏も可能です。また、ステレオ・サンプリング音源を搭載していますので、コンサートグランド・ピアノの豊かな表現力だけでなく、心地よい広がりのある響きが楽しめます。

● 使い勝手に優れた装備 .... (☞p.9、10)

小さなお子さまがご使用になるときも安心な、ゆっくりと静かに閉まるタイプのキー・カバーを採用しました。また、厚い譜面や大きな譜面を押さえるのに便利な、譜面押さえを採用しました。さらに、レッスン用ヘッドホンの置き場所に便利なヘッドホン・フックも装備しています。

● 合計200曲の自動演奏を収録 .... (☞p.11、17)

各音色の特長を生かしたデモ演奏やクラッシック、バイエル、ブルグミュラー、ポップスのピアノ・ソングの自動演奏を合計200曲も内蔵しています。

● ピアノ・ソングを使ったレッスン機能 .... (☞p.20)

名曲集1、2やバイエル、ブルグミュラーのピアノ・ソングは右手、左手のパートの片方を消音して、消音したパートを自分で弾いて練習することができます。また、ピアノ・ソングは早送りや巻き戻し、リピート再生などの機能を使って、任意の位置から自由に練習できます。

● エフェクト機能 .... (☞p.13、14)

音色の明るさを3種類の中から選択できるブリリアンスと、コンサートホールで演奏しているような響きや、音にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにするエフェクト(コーラス、リバーブ)を内蔵しています。

● ペダル効果 .... (☞p.14)

アコースティック・ピアノと同様に3つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果が得られます。

● メトロノーム機能 .... (☞p.15)

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

● タッチ・コントロール機能 .... (☞p.29)

ピアノで一番大切な鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選ぶことができます。

● 音程の調節 .... (☞p.29、30)

他の楽器や曲にキー(調)が合わせられないとき、トランスポーズ機能により簡単にキーを変更(移調)して演奏することができます。また、ピッチ・コントロール機能により音程の微調整もおこなうことができます。

● 音　律 .... (☞p.31)

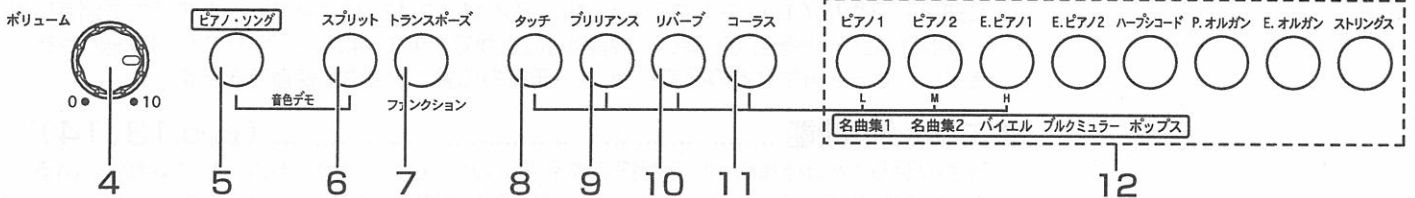
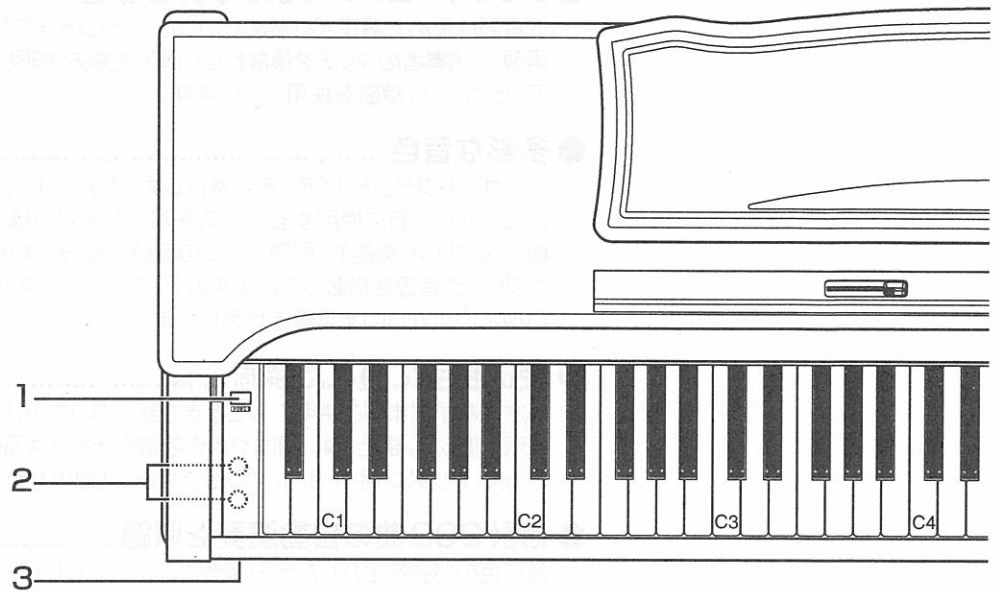
平均律の他に、2種類の古典音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)を選択することによって、古典音楽などの再現も可能になります。

● レコーダー機能 .... (☞p.33)

自分の演奏を、そのまま録音、再生できるレコーダーを内蔵しています。テープレコーダーを操作する感覚で使用できます。

● 接続端子 .... (☞p.8、p.38、p.42)

オーディオ機器や他のMIDI機器、PCなどを接続してレッスンや楽しさを広げるOUTPUT、MIDI、USB端子を装備しています。

各部の名称とその機能

操作面

1. [POWER]（パワー）スイッチ

電源をオンまたはオフにします。押すたびにオンとオフが切り替わります。（☞p.9）

2. ヘッドホン端子（本体底面にあります）

ステレオ・ヘッドホン（標準プラグ）を接続します。ステレオ・ヘッドホンは、2個を同時につなぐことができます。（☞p.10）

3. パワー・ランプ

電源がオンのときに点灯します。

4. [ボリューム]ツマミ

スピーカー、ヘッドホン、アウトプット端子から出る音量をコントロールします。（☞p.10）

5. [ピアノ・ソング]スイッチ

ピアノ・ソング集の演奏を選びます。（☞p.17）

6. [スプリット]スイッチ

鍵盤を低音側と高音側に分けて、別々の音色で演奏するためのスイッチです。（☞p.26）

7. [トランスポーズ/ファンクション]スイッチ

移調（☞p.29）や、MIDIに関する設定（☞p.38）を行うときに使います。この他さまざまな設定にも使用します。

8. [タッチ]スイッチ

鍵盤のタッチ（感度）を設定します。（☞p.29）

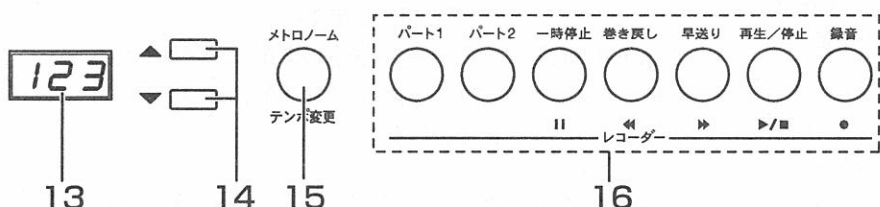
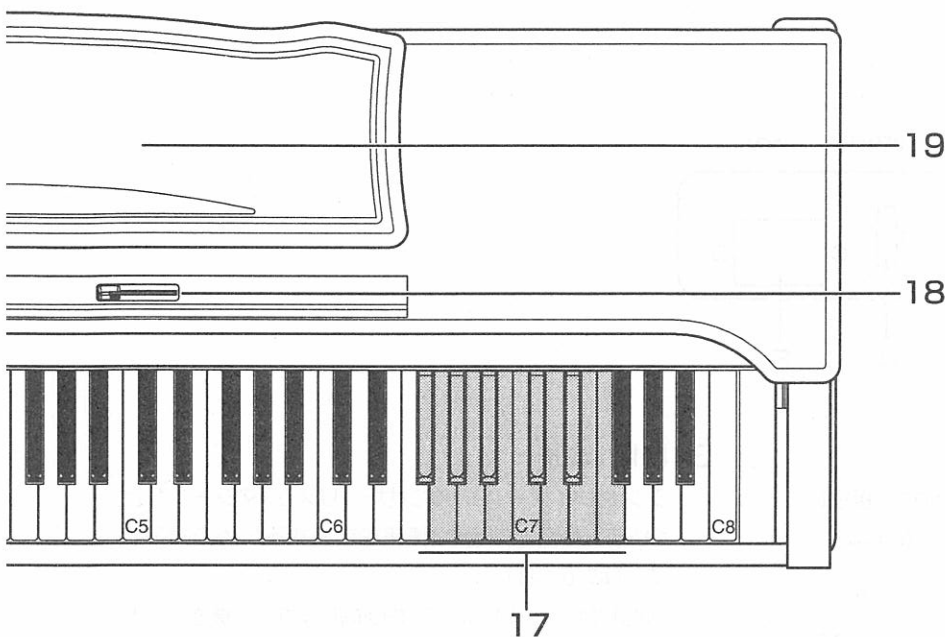
9. [ブリリアンス]スイッチ

音色の明るさを設定するスイッチです。（☞p.13）

10. [リバーブ]スイッチ

音に残響を加えるスイッチです。（☞p.13）

11. [コーラス]スイッチ

音に広がりを加えるスイッチです。（☞p.14）

12. 音色スイッチ

音色を選びます。（☞p.13）

ピアノ1、2、E.ピアノ（エレクトリック・ピアノ）1、2、ハープシコード、P.オルガン（パイプ・オルガン）、E.オルガン（エレクトリック・オルガン）、ストリングスの8音色から選択します。

2つの音色を同時に使って演奏することもできます（レイヤー機能）。

13. マルチ・ディスプレイ

メトロノーム、レコーダーのテンポやレコーダーのメモリー残量などを表示します。

小節数または、曲の先頭からの位置を示すカウンター値 メモリー残量 039 39小節 39の位置 残量39%

ピアノ・ソング番号（ディスプレイが点滅） 025 No. 25

メトロノーム・テンポ、ソング・テンポ（ドットが3つとも点灯） 1.0.8. 108

%表示のソング・テンポ（左端のドットが点灯） -.20 −20% .10 +10%

14. [▲]、[▼]スイッチ

デモソング曲の選択や、メトロノーム、レコーダーのテンポの値の調整などをします。

15. [メトロノーム]スイッチ

メトロノームをスタート/ストップします。（☞p.15）

16. レコーダー・セクション

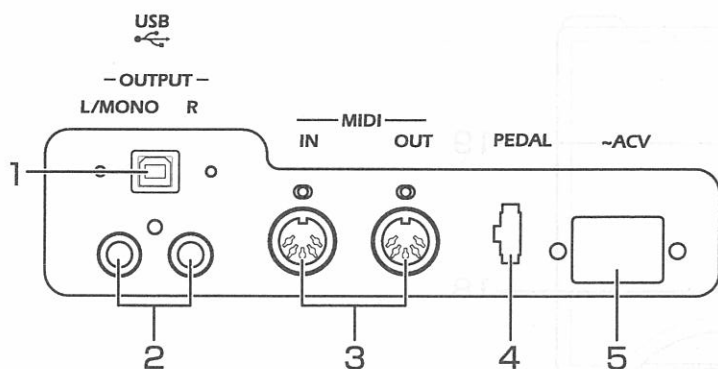
演奏を録音/再生します。（☞p.33）

17. トランスポーズ用鍵盤

トランスポーズ（移調）をします。（☞p.29）

18. 譜面押さえ（☞p.10）

19. 譜面立て（☞p.10）

底面

1. USB端子

コンピューターなどとUSBケーブルで直接、接続しデータの交換をするための端子です。(☞p.42)

2. OUTPUT(アウトプット)端子

アンプ付きスピーカーなどのインプット端子につないで音を出したり、録音機器などにつなぐときに使用する端子です。モノラル標準プラグのケーブルを使用します。

ステレオで接続することを推奨しますが、モノラルで接続するときは、L/MONO側に接続してください。

MeMO 外部機器のスピーカーを使う場合、ヘッドホンを接続すると本機のスピーカーから音を出なくすることができます。

各接続は必ず電源をオフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器などを破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

接続するケーブルは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

3. MIDI端子

シンセサイザー、シーケンサー、リズム・マシーンなどのMIDI機器と接続し、情報を交換するための端子です。(☞p.38)

MIDI IN　MIDI情報を受信します。本機をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUTと接続します。

MIDI OUT　MIDI情報を送信します。本機からコントロールする外部MIDI機器のMIDI INと接続します。

USB接続をしたときは、機能がかわります。(☞p.42)

4. PEDAL(ペダル)端子

付属のスタンドのペダルコードを接続します。(☞p.50)

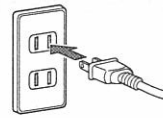
5. AC IN端子

付属の電源コードを接続します。(☞p.50)

演奏するための準備

演奏を始める前に

■電源コードの接続

電源コードのコネクターを、本体底面のAC INソケットに差し込みます(☞p.8、50)。次に電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。
必ずAC100Vの電源コンセントに、差し込んでください。

■キーカバーを開ける

キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの手前のへりを両手で持ち上げて静かに開けてください。
キー・カバーを閉めるときは、手前のへりを持ち、静かに閉めてください。
閉めるときは、途中から自然にゆっくりと閉まる構造になっていますので無理に閉めないでください。(図.1)

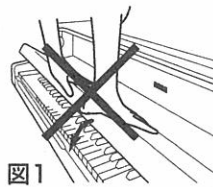



図1

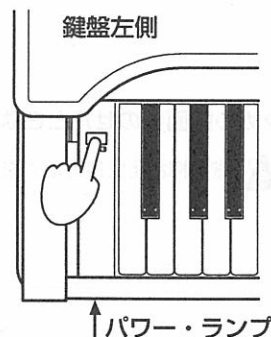
図2

キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。(図.2)

無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。

キー・カバーの開閉時は、キー・カバーの上に紙やコインなどがないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。

■電源をオンにする

[POWER]スイッチを押してオンにします。
正面左側にあるパワー・ランプが点灯します。
オフにするときは、もう一度[POWER]スイッチを押してください。
正面左側にあるパワー・ランプが消灯します。

電源をオフにすると、「設定を記憶する」(☞p.32)で変更した設定以外は全て工場出荷時の設定に戻ります。ただし、レコーダー機能で録音した本体メモリー内の演奏データは消えません。

■ 音量を調節する

[ボリューム]ツマミを回して音量を調整します。

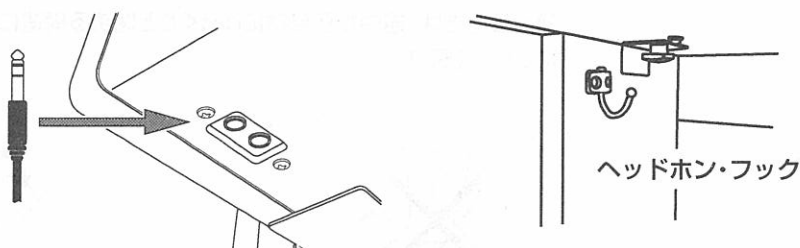
本体のスピーカーとヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。[ボリューム]ツマミが"0"の位置では音は出ません。

 [ボリューム]ツマミは"0"の位置から徐々に音量を上げてください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンを差し込むと 本機のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときなどにヘッドホンをお使いください。

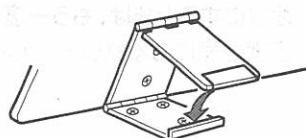
ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。

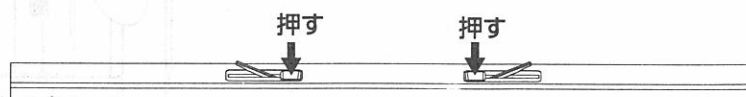
本体底面の左手前側にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ(標準プラグ)を差し込みます。

ヘッドホンを使用しないときは、スタンドの側板(左)の内側にあるフックに引っ掛けて収納することができます。

 「ミニ→標準」の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

 ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

譜面立てを使う

譜面立てを起こし、裏面にある2つのストッパーを使って、倒れないように固定します。

厚めの譜面をのせたときは、手前の譜面押さえを使用してください。

 譜面押さえに無理な力を加えないでください。

自動演奏(音色デモ)を聴いてみましょう

本機には、高品位な8種類の音色を使った音色デモが8曲と、ピアノ音色を使い、なじみのあるピアノ曲などをあつかったピアノ・ソングが192曲入っています。ここでは、その中から音色デモ8曲を聴いて、豊かな音色とその表現力を確認してください。

MeMO 音色デモ以外のピアノ・ソング192曲には、演奏に合わせて指使いを練習できるバイエル、ブルクミュラーや、演奏を聞きながら練習に使える名曲集、ポップスのソング集があります。
ピアノ・ソングを演奏するには、17ページ「自動演奏(ピアノ・ソング)を活用しよう」をご覧ください。

音色デモを聴く

音色デモ一覧

No.	音色スイッチ	曲名	作者
1	[ピアノ1]	革命のエチュード	F.ショパン
2	[ピアノ2]	Reflection	M. テンピア
3	[E.ピアノ1]	Three Hands	H.ミナミ
4	[E.ピアノ2]	All The Ones You Don't Know	M. テンピア
5	[ハープシコード]	イタリア協奏曲	J.S.バッハ
6	[P.オルガン]	フーガト短調	J.S.バッハ
7	[E.オルガン]	Cool"B"	M. テンピア
8	[ストリングス]	G線上のアリア	J.S.バッハ

音色デモの演奏中に鍵盤を弾いて、その音を出すことはできますが、音色を変えることはできません。

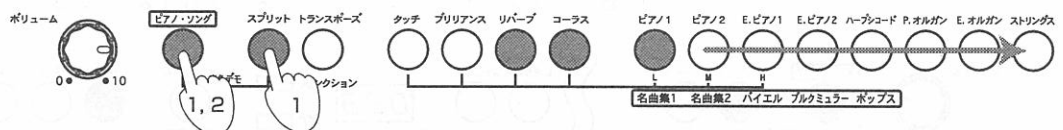
音色デモの演奏中はエフェクト(リバーブ、コーラス)の設定を変えることはできません。

音色デモはテンポを変えることができません。

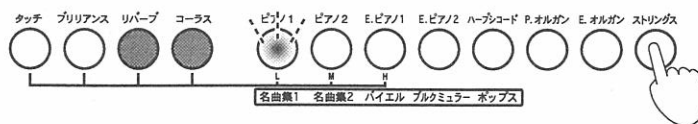
■ すべての音色デモを演奏するときは

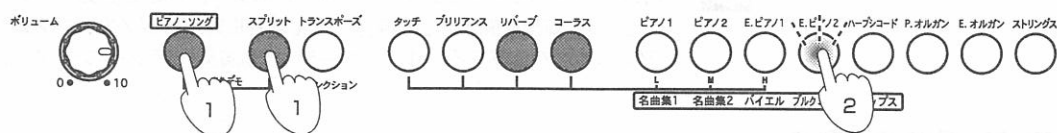
1. [ピアノ・ソング]スイッチと、[スプリット]スイッチを同時に押します。

[ピアノ・ソング]スイッチと、[スプリット]スイッチが点灯し、8つの音色スイッチが1つずつ順番に点灯します。

曲を選ばないまま約5秒経過すると、音色デモのNo.1から順番に演奏を開始します。演奏中は割り当てられている音色スイッチが点滅します。音色デモのNo.8の演奏が終わると、再び音色デモのNo.1に戻り演奏を続けます。

2. 演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。

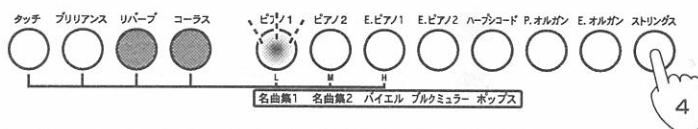
[ピアノ・ソング]、[スプリット]スイッチと点滅していた音色スイッチが消灯し演奏が止まり、通常の演奏できる状態に戻ります。

音色デモ演奏中に、他の音色デモに切りかえるときは、その音色スイッチを押してください。
たとえば、音色デモのNo.1を演奏中にNo.8に切りかえるときは、音色スイッチの[ストリングス]を押してください。選んだスイッチが点灯し、音色デモの演奏は、No.8に切り替わり順番に演奏を続けます。

■聴きたい音色デモを演奏するときは

1. [ピアノ・ソング] スイッチと、[スプリット] スイッチを同時に押します。
   [ピアノ・ソング] スイッチと、[スプリット] スイッチが点灯し、8つの音色スイッチが1つずつ順番に点灯します。

2. 音色デモ一覧から聴きたい曲が割り当てられている音色スイッチを押します。
   選んだ音色スイッチが点滅にかわり、演奏を開始します。

   曲を選ばないまま約5秒経過すると、前項「すべての音色デモを演奏するときは」の動作になります。

3. 選んだ音色デモの演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏されます。

4. 音色デモ演奏中に、他の音色デモに切りかえるときは、その音色スイッチを押してください。
   たとえば、音色デモのNo.1を演奏中にNo.8に切りかえるときは、音色スイッチの[ストリングス]を押してください。選んだスイッチが点滅し、音色デモの演奏は、No.8に切り替わり順番に演奏を続けます。

5. 演奏をやめるときは [ピアノ・ソング] スイッチを押します。
   [ピアノ・ソング]、[スプリット] スイッチと点滅していた音色スイッチが消灯し演奏が止まり、通常の演奏できる状態に戻ります。

■演奏中の音色デモを先頭から聴き直すときは

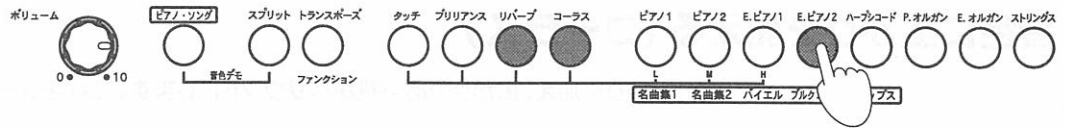
1. 演奏中にレコーダーの [再生/停止] スイッチを押すと演奏が停止します。
   このとき、[ピアノ・ソング] スイッチと、[スプリット] スイッチはまだ点灯中です。

MeMO ここで [ピアノ・ソング] スイッチを押すと通常の演奏できる状態に戻ります。

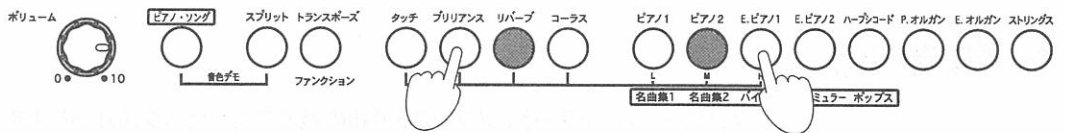
2. もう一度[再生/停止]スイッチを押すと、その曲の最初から演奏します。

弾いてみましょう

音色を選ぶ

○ **音色スイッチを１つ押して、音色を選びます。**
選んだ音色スイッチが点灯します。

ピアノ1	臨場感あふれる最高峰のグランドピアノの音
ピアノ２	ジャンルを問わずオールマイティに弾けるグランドピアノの音
E.ピアノ1（エレクトリック・ピアノ1）	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
E.ピアノ2（エレクトリック・ピアノ2）	アタック感があって切れの良いエレクトリックピアノの音
ハープシコード	クラシックな趣きのあるリアルなハープシコードの音
P.オルガン（パイプ・オルガン）	荘厳なパイプオルガンの音
E.オルガン（エレクトリック・オルガン）	ファンキーでポップなオルガンの音
ストリングス	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

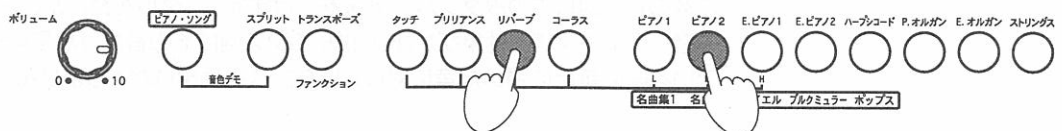
音色の明るさをかえる（ブリリアンス）

○ **［ブリリアンス］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ピアノ1（L）］、［ピアノ2（M）］、［E.ピアノ1（H）］の中から１つを押して、音の明るさを選びます。**
［ピアノ1（L）］または［E.ピアノ1（H）］を選んだときは、［ブリリアンス］スイッチが点灯します。

ピアノ1（L）	明るさを抑えた落ち着いた音色
ピアノ2（M）	標準の音色
E.ピアノ1（H）	明るめの音色

MeMO　この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

音色に残響を加える（リバーブ）

音に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

○ **［リバーブ］スイッチを押すたびにオン（点灯）、オフ（消灯）を繰り返します。**
［リバーブ］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ピアノ1（L）］、［ピアノ2（M）］、［E.ピアノ1（H）］の中から１つを押して、リバーブの深さを選びます。

ピアノ1（L）	浅いリバーブ効果
ピアノ2（M）	標準のリバーブ効果
E.ピアノ1（H）	深いリバーブ効果

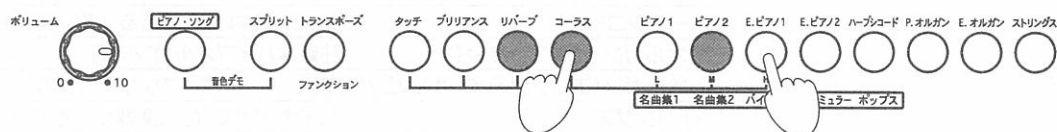
リバーブのオン、オフや深さは音色ごとに設定することができます。工場出荷時時には、各音色ごとに推奨する設定になっています。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

ピアノ1、2、E.ピアノの音色では、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートしているためリバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

音色に広がりを加える（コーラス）

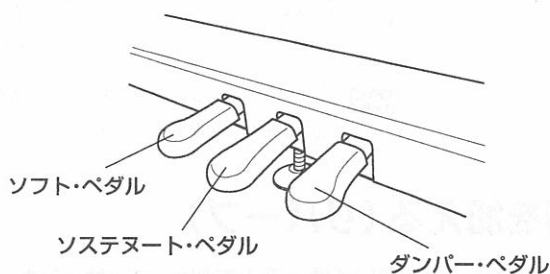
音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これをコーラス効果といいます。

○ [コーラス] スイッチを押すたびにオン（点灯）、オフ（消灯）を繰り返します。
[コーラス] スイッチを押しながら、音色スイッチの [ピアノ1（L）]、[ピアノ2（M）]、[E.ピアノ1（H）] の中から1つを押して、コーラスの深さを選びます。

ピアノ1（L）	浅いコーラス効果
ピアノ2（M）	標準のコーラス効果
E.ピアノ1（H）	深いコーラス効果

コーラスのオン、オフや深さは音色ごとに設定することができます。工場出荷時時には、各音色ごとに推奨する設定になっています。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能をもったペダルがあります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。

ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

メトロノームに合わせて演奏する

テンポに合わせて演奏するときは、メトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります。

■メトロノームを鳴らすときは

1. [メトロノーム] スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。
[メトロノーム] スイッチが点灯します。

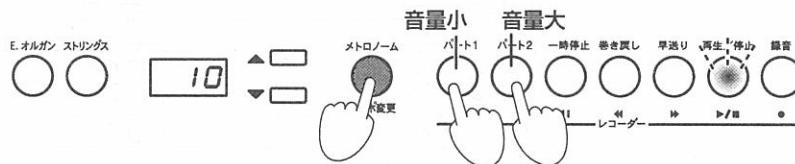
2. メトロノームをストップするときは、もう一度 [メトロノーム] スイッチを押します。
[メトロノーム] スイッチが消灯します。

■メトロノームの音量を調整するときは

1. [メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム] スイッチが点灯します。

2. [メトロノーム] スイッチを押しながら、[パート1] または [パート2] スイッチを押して、音量を調整します。
マルチ・ディスプレイにメトロノームの音量1～13(工場出荷時は10)が表示されます。

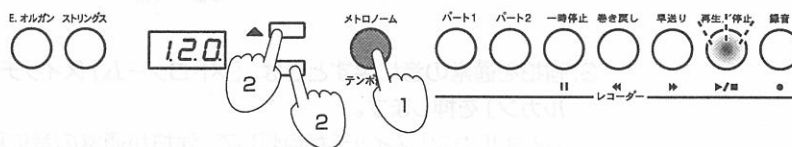
[メトロノーム] スイッチを押しながら [パート1] スイッチを繰り返し押すと、音量が小さくなります。

[メトロノーム] スイッチを押しながら [パート2] スイッチを繰り返し押すと、音量が大きくなります。

3. もとの音量に戻すときは、[メトロノーム] スイッチを押しながら [パート1] と [パート2] スイッチを同時に押します。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

■テンポを設定するときは

MeMO 現在のメトロノームのテンポを確認するときは、[メトロノーム] スイッチを長押し(1秒以上)して、マルチ・ディスプレイの表示をテンポにします。テンポ表示のときはマルチ・ディスプレイのドットが3つとも点灯します。

1. [メトロノーム] スイッチを押します。
[メトロノーム] スイッチが点灯します。
テンポに合わせて、レコーダーの [再生/停止] スイッチが点滅します。

2. [▲]、[▼] スイッチで、テンポを調整してください。
テンポがマルチ・ディスプレイに表示されます。
スイッチを押している間は、連続して値が変わります。
設定できる範囲は、♩=40～240です。

弾いてみましょう

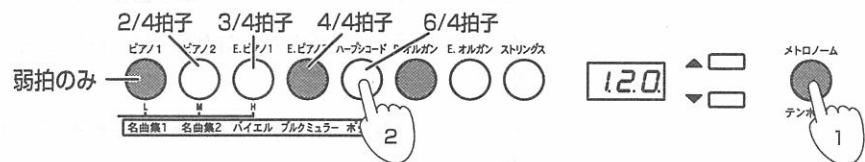
MeMO メトロノームをオン、またはオフのままテンポを設定するときは、[メトロノーム]スイッチを長押し(1秒以上)して押してマルチ・ディスプレイの表示をテンポにし、[▲]、[▼]スイッチで調整します。

MeMO [メトロノーム]スイッチを押しながら、鍵盤のB3〜A4を押すことで、直接数値入力することもできます(☞p.53)。

■ 拍子を設定するときは

電源をオンにした直後に[メトロノーム]スイッチを押したときは、メトロノームの拍子は4/4拍子で弱拍のみになり、音色スイッチの[ピアノ1]と[E.ピアノ2]が点灯します。この拍子は変更することができます。

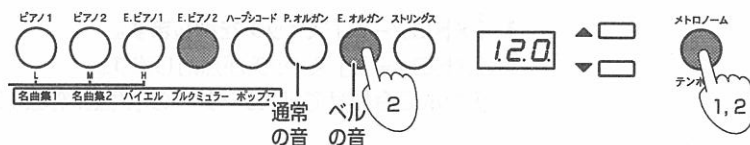
1. [メトロノーム]スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム]スイッチが点灯します。

2. [メトロノーム]スイッチを押しながら、音色スイッチを押します。
押した音色スイッチのランプが点灯します。
音色スイッチの[ピアノ2]から[ハープシコード]を押してそれぞれの拍子を選択すると、拍子の1拍目が強拍になります。
音色スイッチの[ピアノ1]を押すと、弱拍のみになって、強拍が弱拍の音で鳴ります。

ピアノ1	弱拍のみ
ピアノ2	2拍子
E.ピアノ1	3拍子
E.ピアノ2	4拍子
ハープシコード	6拍子

■ 強拍をベルの音にするときは

1. [メトロノーム]スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。
[メトロノーム]スイッチが点灯します。

 [ピアノ1](弱拍のみ)のスイッチが点灯しているときは、強拍がないためベル音を鳴らすことができません。[メトロノーム]スイッチを押しながら、[ピアノ1]スイッチを押し(消灯)て弱拍のみを解除してください。

2. [メトロノーム]スイッチを押しながら音色スイッチの[E.オルガン]を押します。
[E.オルガン]スイッチが点灯して、強拍がベルの音になります。

3. 強拍を通常の音に戻すときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら音色スイッチの[P.オルガン]を押します。
[P.オルガン]スイッチが点灯して、強拍が通常の音に戻ります。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」を参照してください。

自動演奏（ピアノ・ソング）を活用しよう

演奏を聞きながら練習に使える名曲集、バイエル、ブルクミュラー、ポップスのピアノ・ソングを192曲内蔵しています。このピアノ・ソングのうちバイエル、ブルクミュラーの計131曲はピアノ練習としても使うことができます。

ピアノ・ソングを聴く

ピアノ・ソングは名曲集1、2、バイエル、ブルクミュラー、ポップスの5つのグループに分けて収録されています。それぞれのグループは割り当てられている5つの音色スイッチで選ぶことができます

ピアノ・ソング一覧

グループ	音色スイッチ	曲数	備考
名曲集1	[ピアノ1]	32	パート練習可、楽譜同梱（非売品）
名曲集2	[ピアノ2]	13	パート練習可
バイエル	[E.ピアノ1]	106	パート練習可、メトロノーム使用可
ブルクミュラー	[E.ピアノ2]	25	パート練習可、メトロノーム使用可
ポップス	[ハープシコード]	16	テンポ変更不可

それぞれのグループ内の曲名は、51ページ「ピアノ・ソング・リスト」をご覧ください。

MeMO ピアノ・ソング（ポップスを除く）は、左右のパートを分けて再生することができます。

MeMO ピアノ・ソングの演奏中に鍵盤を弾くと、ピアノ音色で演奏できます。

[ピアノ・ソング] スイッチが点灯しているときは、エフェクト（リバーブ、コーラス）の設定を変えることはできません。

名曲集1、2、ポップスはメトロノームは使用できません。また、ポップスのテンポは変更できません。

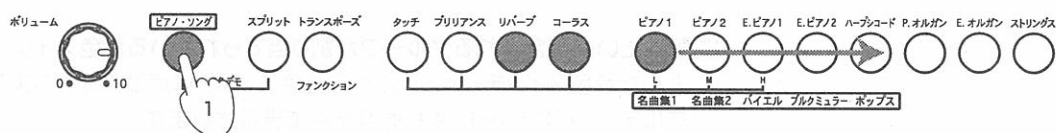
■ピアノ・ソングを続けて演奏するときは

バイエルのソング・グループは演奏されません。

1. **[ピアノ・ソング] スイッチを押します。**

   [ピアノ・ソング] スイッチが点灯し、5つの音色スイッチが1つずつ順番に点灯します。

   そのまま約5秒経過すると、名曲集1のグループの1曲目から順番に演奏を開始します。

   演奏中はグループが割り当てられている音色スイッチが点滅します。ポップスの16曲目の演奏が終わると、再び名曲集1のグループの先頭の曲に戻り演奏を続けます。

2. **演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。**

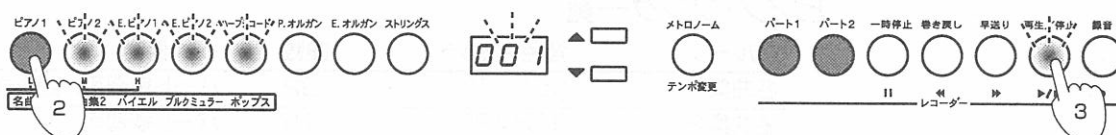
   [ピアノ・ソング] スイッチと点滅していた音色スイッチが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

ピアノ・ソングの演奏中に、他のグループに切りかえるときは、その音色スイッチを押してください。
たとえば、名曲集1のグループを演奏中にポップスのグループに切りかえるときは、音色スイッチの[ハープシコード]を押してください。選んだスイッチが点灯（他のスイッチは点滅）し、ピアノ・ソングの演奏が止まります。レコーダーの[再生/停止]スイッチを押すと、ポップスの1番から順番に演奏を続け、次項「グループ単位でのピアノ・ソングを演奏するときは」の動作になります。

■グループ単位でのピアノ・ソングを演奏するときは

1. [ピアノ・ソング] スイッチを押します。
   [ピアノ・ソング] スイッチが点灯し、グループが割り当てられている5つの音色スイッチが1つずつ順番に点灯します。

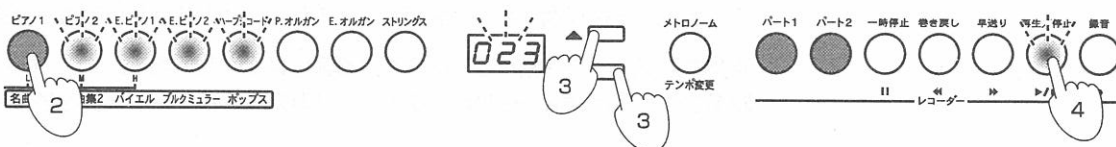
   グループを選ばないまま約5秒経過すると、前項「ピアノ・ソングを続けて演奏するときは」の動作になります。

2. 聴きたいグループが割り当てられている音色スイッチを押します。
   選んだ音色スイッチが点灯し、他の音色スイッチは点滅にかわります。
   マルチ・ディスプレイには曲番号が点滅表示されます。

3. レコーダーの[再生/停止]スイッチを押すと演奏が始まります。
   選んだ音色スイッチだけの点滅にかわり、グループの先頭の曲から最後の曲までを順番に繰り返し演奏します。
   マルチ・ディスプレイの表示は小節数（または、カウンター表示）になります。

4. ピアノ・ソングの演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。
   [ピアノ・ソング] スイッチと点滅していた音色スイッチが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

■聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは

1. [ピアノ・ソング] スイッチを押します。
   [ピアノ・ソング] スイッチが点灯し、グループが割り当てられている5つの音色スイッチが1つずつ順番に点灯します。

   グループを選ばないまま約５秒経過すると、前々項「ピアノ・ソングを続けて演奏するときは」の動作になります。

2. 聴きたい曲が含まれるグループが割り当てられている音色スイッチを押します。
   選んだ音色スイッチが点灯し、他の音色スイッチは点滅にかわります。
   マルチ・ディスプレイには曲番号が点滅表示されます。

3. [▲]、[▼]スイッチを押し、マルチ・ディスプレイで聴きたい曲の番号を選びます。
   曲名、および番号は51ページ「ピアノ・ソング・リスト」をご覧ください。

   MeMO [▲]、[▼]スイッチを同時に押すと、選んだグループの先頭の曲を選ぶことができます。

4. レコーダーの[再生/停止]スイッチを押します。
   音色スイッチだけの点滅にかわり、選んだ曲の演奏が始まります。
   マルチ・ディスプレイの表示は小節数（または、カウンター表示）になります。
   選んだ曲の演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏され、グループの最後の曲が終わると先頭の曲に戻り、繰り返し演奏されます。

   MeMO 1曲のみを繰り返し演奏するときは、その曲の演奏中に［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押してリピート再生にします（［トランスポーズ/ファンクション］スイッチ点滅）。
   リピート再生を止めるときは、［一時停止］または、［再生/停止］スイッチを押します（［トランスポーズ/ファンクション］スイッチ消灯）。

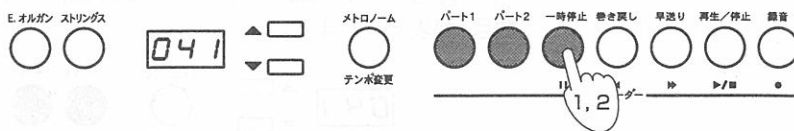
MeMO 演奏中に他の曲に切りかえるときは、[再生/停止]スイッチを押した後、聴きたい曲が含まれるグループが割り当てられている音色スイッチを押します。マルチ・ディスプレイが曲番号の点滅にかわったことを確認し、操作3.以降を行います。

5. ピアノ・ソングの演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。

[ピアノ・ソング]スイッチと点灯していた音色スイッチが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

■ピアノ・ソング演奏を一時停止するときは

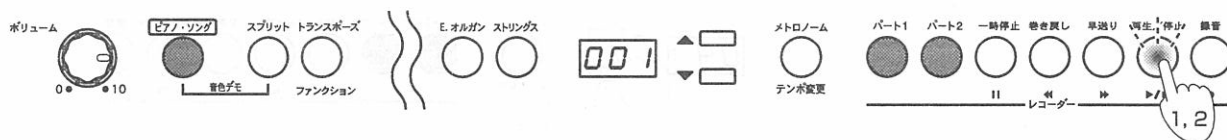
1. 演奏中にレコーダーの[一時停止]スイッチを押すと演奏が一時停止します。

[一時停止]スイッチが点灯し、[再生/停止]スイッチが消灯します。

2. もう一度[一時停止]スイッチを押すと一時停止したところから演奏を再開します。

[一時停止]スイッチが消灯し、[再生/停止]スイッチが点滅にかわります。

■演奏中のピアノ・ソングを先頭から聴き直すときは

1. 演奏中にレコーダーの[再生/停止]スイッチを押すと演奏が停止します。

このとき、[ピアノ・ソング]スイッチはまだ点灯中です。

2. もう一度[再生/停止]スイッチを押すとその曲の最初から演奏します。

■ピアノ・ソングのテンポを変えるときは

ピアノ・ソングはテンポが変えられます。

ポップスのピアノ・ソングはテンポを変えられません。

1. [メトロノーム]スイッチを押します。

[メトロノーム]スイッチが点灯します。

バイエル、ブルクミュラーのときは、マルチ・ディスプレイにオリジナルのテンポが表示されます。

名曲集1、2のときは、マルチ・ディスプレイにオリジナルのテンポに対する%が表示されます。

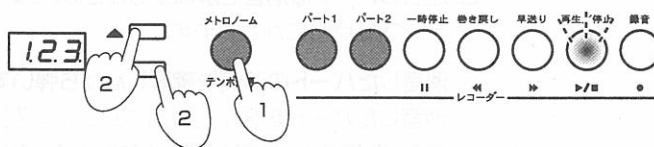
MeMO テンポ表示のときはマルチ・ディスプレイのドットが3つ、%表示のときは1つ点灯します。

2. [▲]、[▼]スイッチを押し、、テンポを調整してください。

テンポ、または%がマルチ・ディスプレイに表示されます。

スイッチを押している間は、連続して値が変わります。

設定できる範囲は、オリジナルの−50%〜+50%です。

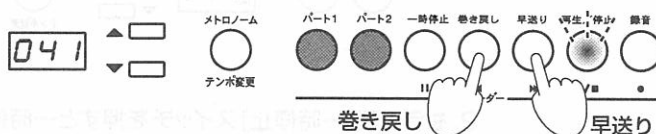
デモ曲は、それぞれでテンポが設定されていますので、1つの曲でテンポを調整しても曲が変わると、その曲のオリジナルのテンポになります。

MeMO テンポをかえた後で、オリジナルのテンポに戻すときは、テンポ、または%がマルチ・ディスプレイに表示されているときに[▲]、[▼]スイッチを同時に押してください。また、電源をオフにしたり、他のピアノ・ソングを選んだときもオリジナルのテンポに戻ります。

MeMO メトロノームの音を出さずにテンポを変えるときは、[メトロノーム]スイッチを長押し(1秒以上)してマルチ・ディスプレイの表示をテンポにし[▲]、[▼]スイッチを押してテンポを調整してください。

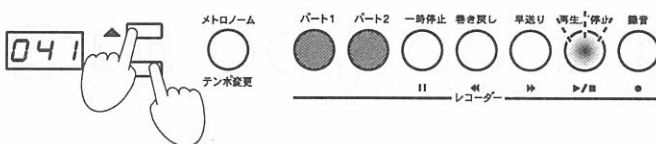
MeMO バイエル、ブルクミュラーのときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら、鍵盤のB3～A4を押すことで、直接数値入力することもできます(☞p.53)。

■ ピアノ・ソングの早送り、巻き戻し

○ **演奏中または停止、一時停止のときに[早送り]スイッチを押している間(スイッチ点滅)、3倍速で再生します。また、[巻き戻し]スイッチを押している間(スイッチ点滅)、3倍速で逆再生します。**

マルチ・ディスプレイには、現在再生中の小節位置(バイエル、ブルクミュラー、ポップスの1～15曲目)、または曲の先頭からの位置を示すカウンター値(名曲集1、2、ポップスの16曲目)が表示されます。

■ 小節移動

○ **ピアノ・ソングの演奏中または停止、一時停止のときなどに、マルチ・ディスプレイに小節位置が表示されている場合は、[▲]、[▼]スイッチを押して小節間の移動ができます。**

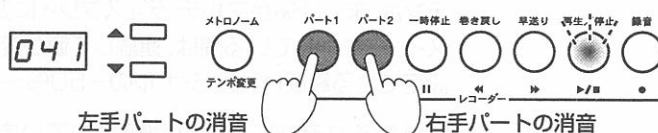
このときに、[▲]、[▼]スイッチを同時に押すと先頭の小節(001)に移動できます。

マルチ・ディスプレイに曲の先頭からの位置を示すカウンター値が表示される名曲集1、2とポップスの16曲目のピアノ・ソングのときは、カウンター値の移動になります。

ピアノ・ソングに合わせて弾いてみる

■ 右手と左手を別々に演奏するときは

ピアノ・ソング(ポップスを除く)は、右手または左手のパートのどちらかをデモ演奏させ、もう一方のパートを消音して自分で演奏することができます。

1. **左手のパートを消音するときは、[パート1]スイッチを押し、右手のパートを消音するときは、[パート2]スイッチを押します。**

   押したスイッチのランプが点滅します。
   曲に合わせて演奏してください。

2. **左右のパートの消音を解除するときは、ランプの点滅しているパートのスイッチを押します。**

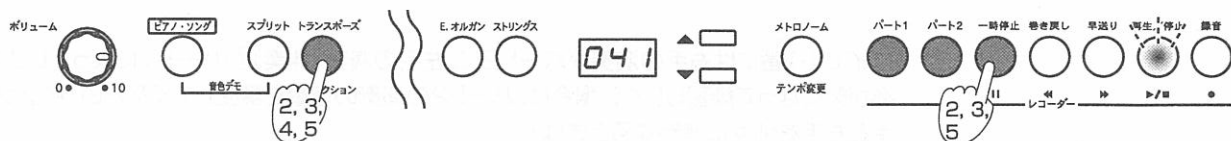
   ランプが点灯にかわります。

○ **消音したパートの演奏を確認しながら弾いてみるときは、消音パートの音量を調整します。**

消音したパートを選んだ後、[ブリリアンス]スイッチを押しながら音色スイッチの[ストリングス]を押すと、音量が大きくなります。また、[ブリリアンス]スイッチを押しながら音色スイッチの[E.オルガン]を押すと、音量が小さくなります。このとき、マルチ・ディスプレイに0(消音)から12まで音量が表示されます。

■任意の位置を指定して繰り返し演奏するときは（ABリピート機能）

ピアノ・ソングの演奏の開始位置と終了位置を指定しその区間を繰り返し演奏することができます。

1. 「聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは」の手順で演奏を始めます。
2. 演奏中に、繰り返し演奏を開始する位置になったとき、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、レコーダーの［一時停止］スイッチを押し、開始位置を指定します。
   ［一時停止］スイッチが点滅になります。
3. そのまま演奏を続け、繰り返し演奏を終了する位置になったとき、もう一度［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［一時停止］スイッチを押し、終了位置を指定します。
   ［一時停止］スイッチが点灯にかわります。
4. 自動的に2.で設定した開始位置に戻り、指定した開始位置と終了位置の区間を、繰り返し演奏します。

5. 指定区間の演奏を解除するときは、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［一時停止］スイッチを押します。
   ［早送り］、［巻き戻し］、［一時停止］、［再生/停止］スイッチを押して解除することもできます。

ピアノ・ソングを使った練習

■ 練習曲について

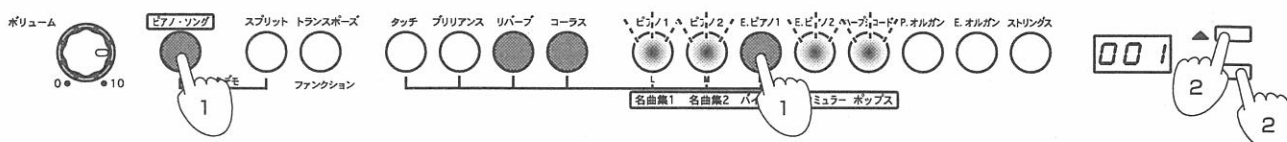
バイエルとブルクミュラーは練習曲として便利なように、演奏時は市販の一般的な楽譜と本機のマルチ・ディスプレイの小節表示が合うようになっています。
これにより、楽譜を見たり、実際の演奏を聞いたりしながら練習することができます。
また、練習曲は、テンポを変えることができます。最初は弾けるテンポで練習を始め、だんだん指定のテンポまで早くするという練習を重ねることで、しっかりとした技術を身につけることができます。

MeMO　バイエル、ブルクミュラーの練習曲は曲により2または、1小節分のカウント後、演奏が始まります。

名曲集1、名曲集2、ポップスは演奏のニュアンスを勉強できるように、コルグ専属のピアニストがリアルタイム録音しています。ある程度弾けるようになってから、演奏の表現の幅を広げるための一例として合わせて弾いてみると良いでしょう。

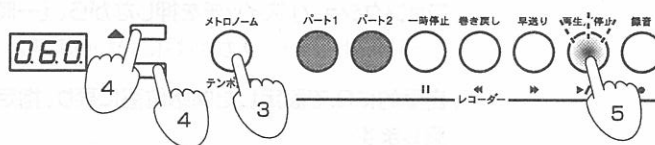
MeMO　マルチ・ディスプレイの表示は、バイエル、ブルクミュラー、ポップスの1～15曲目のときは小節位置を、名曲集1、2、ポップスの16曲目のときは曲の先頭からの位置を示すカウンター値になります。

■ バイエル1番を練習してみましょう

1. ［ピアノ・ソング］スイッチを押した後、バイエル（［E.ピアノ1］スイッチ）を押します。
   18ページ「聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは」参照してください。
2. マルチ・ディスプレイの数字が“001”であることを確認します。他の数字の時は［▲］、［▼］スイッチで“001”を選んでください。
   市販の楽譜とピアノ・ソングのバイエルの曲番号は同一です。

3. [メトロノーム]スイッチを押してマルチ・ディスプレイにテンポを表示させます。
19ページ「ピアノ・ソングのテンポを変えるときは」参照してください。

MeMO この時、メトロノームが鳴ります。不要な場合は、もう一度[メトロノーム]スイッチ押して音を消してください。ただし、マルチ・ディスプレイはテンポ表示のままです。

4. [▲]、[▼]スイッチで自分が演奏できそうなテンポを設定します。
ここでは"60"にしてみましょう。拍子は自動的に選んだ曲の拍子になります。

5. レコーダーの[再生/停止]スイッチを押します。
テンポ"60"で2小節分(8カウント)のカウント後、選んだ曲の演奏が始まります。

バイエル1番には右手の演奏がパート2に、左手の演奏(伴奏)がパート1に入っています。伴奏が気になって練習しにくい場合は、パート2の演奏の音量を調整してください(☞p.20「右手と左手を別々に演奏するときは」)。

繰り返し練習するときは

- **少し巻き戻す**
  再生、または一時停止中に[巻き戻し]スイッチを押します。スイッチを押し続けている間、3倍速で音を確認しながら巻き戻すことができます。
- **各小節の先頭に戻す**
  マルチ・ディスプレイに小節が表示されているときに[▲]、[▼]スイッチで先頭に戻す小節を設定します。[一時停止]スイッチが点灯しているときは、[一時停止]スイッチを押すとその小節の頭から演奏がはじまります。
- **任意の位置を繰り返し演奏する**
  21ページ「任意の位置を指定してリピート演奏するときは」をご覧ください。

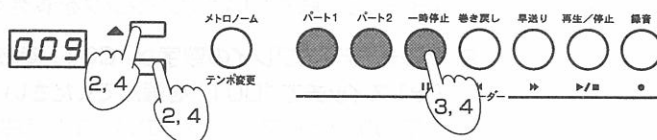
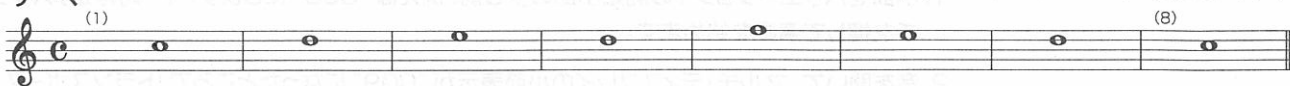
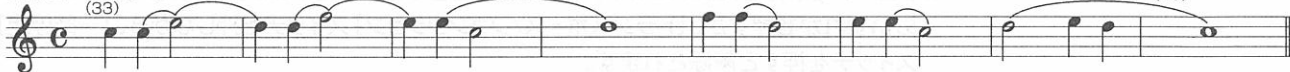
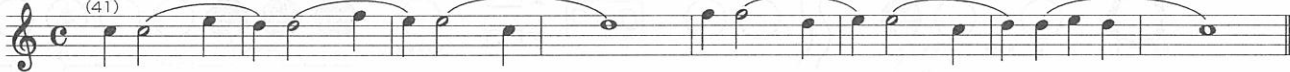
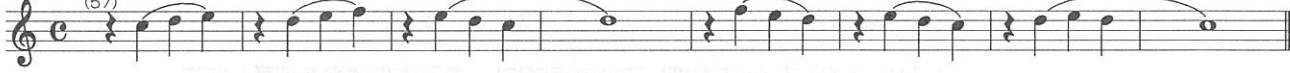
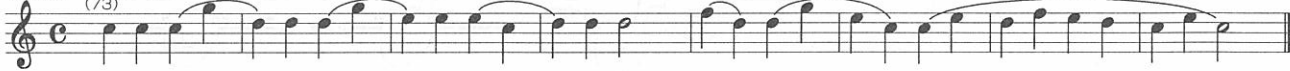
バリエーション1の練習をやってみましょう

バイエル1番はバリエーション全て連続して演奏できるようになっています。各バリエーションの最初が何小節目になるかは最初から数えるか、計算して小節数を書いておくと便利です。バイエルの1番は右記の楽譜のようになります。

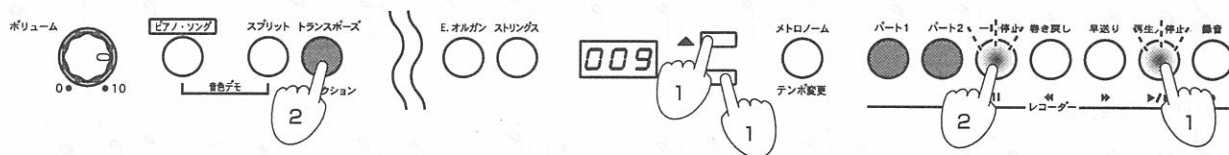
1. マルチ・ディスプレイが小節になっていない場合、[一時停止]、[早送り]スイッチなどを押して表示させます。

2. バリエーション1の最初の小節の2小節前になるよう[▲]、[▼]スイッチで"007"にします。再生中の場合は一時停止にします。

3. [一時停止]スイッチを押します。2小節の演奏後に右手で演奏に合わせて鍵盤を弾きます。

4. バリエーション1が終了したら、[一時停止]スイッチを押して止めます。小節を[▲]、[▼]スイッチで戻してまた練習します。

バイエル1番
※( )はマルチディスプレイ・プレイに表示される小節
テーマ
(1)
(8)
バリエーション1
(9)
(16)
バリエーション2
(17)
(24)
バリエーション3
(25)
(32)
バリエーション4
(33)
(40)
バリエーション5
(41)
(48)
バリエーション6
(49)
(56)
バリエーション7
(57)
(64)
バリエーション8
(65)
(72)
バリエーション9
(73)
(80)
バリエーション10
(81)
(88)
バリエーション11
(89)
(96)
バリエーション12
(97)
(104)

自動的にバリエーション１の区間をリピート練習しましょう。

1. 小節をバリエーション1の開始小節の少し前、例えば “008” にします。[一時停止] スイッチを押して演奏を始めます。

2. 音を聞いて、マルチ・ディスプレイの小節表示が “009” になったところで [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[一時停止] スイッチを押します。(リピート開始点の設定)

3. 音を聞いて、マルチ・ディスプレイの小節表示が “017” になったところで再び [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[一時停止] スイッチを押します。(リピート終点の設定)
   これでリピート開始点と終点を自動的に繰り返し演奏するようになります。演奏に合わせて繰り返し練習します。

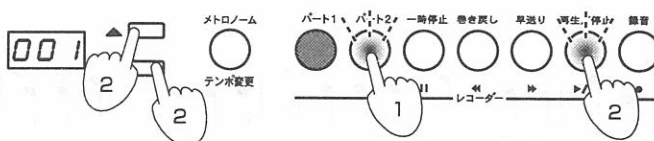
4. リピートを解除したいときは、[一時停止]、[巻き戻し]、[早送り]、[再生/停止] スイッチのいずれかを押すか、[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[一時停止] スイッチを押すと解除されます。

MeMO 練習中にお手本の音が気になる場合、消音することができます。20ページ「右手と左手を別々に演奏するときは」をご覧ください。

伴奏に合わせて仕上げ

充分に練習できたら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。

1. [パート2] スイッチを押して緑の点滅にし、お手本の演奏を消音します。
   20ページ「右手と左手を別々に演奏するときは」をご覧ください

2. 最初の小節 “001” から [再生/停止] スイッチを押して演奏開始します。

バイエル3番以降の曲では右手がパート2、左手がパート1に入っているので、それぞれ片手ずつ練習することができます。
単調になりがちな片手練習も反対の手のパートの演奏がはいっているので、飽きずに進めることができます。
また、うまく弾けないところはABリピート機能を使って何回も練習することで、だんだん弾けるようになります。

■名曲集１、名曲集２の練習（付属の楽譜は名曲集１に対応します）

ある程度弾けるようになってから、片手ずつ合わせて演奏してみましょう。
うまく弾けないないところは、テンポを落として、ABリピート機能を使って練習し、徐々に速度を上げて弾いてみましょう。

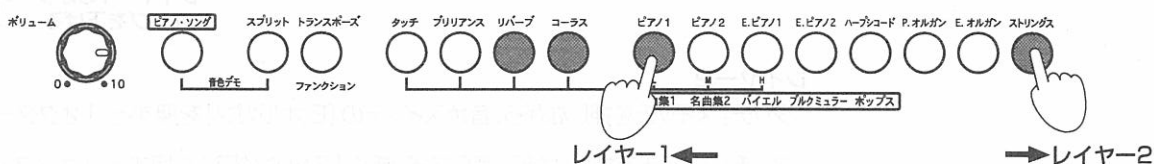
MeMO メトロノームにあわせて練習することはできません。

いろいろな機能を使ってみましょう

2つの音色を重ねて演奏する（レイヤー機能）

1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色（たとえば、ピアノ1とストリングス）を同時に鳴らして、演奏することができます。
これをレイヤー機能といいます。

1. 2つの音色スイッチを同時に押します。
2つの音色スイッチが点灯します。

点灯している2つの音色スイッチのうち、左側の音色をレイヤー1、右側の音色をレイヤー2といいます。

レイヤー時の同時発音数は、ピアノ2の音色を含んだ組み合わせのときには21音、その他の音色の組み合わせのときには16音になります。

2. レイヤー機能を解除するときは、音色スイッチを1つ押します。
押したスイッチの音色にかわります。

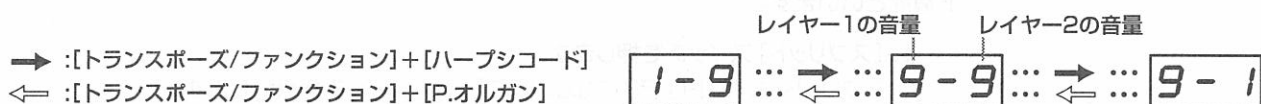
■2つの音色の音量バランスを変えるときは

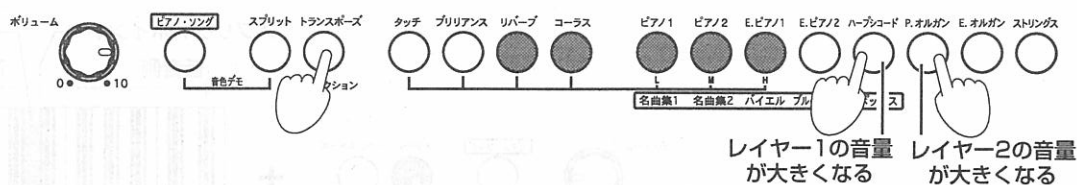
選んだ2つの音色の音量バランスを調整することができます。

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ハープシコード］または［P.オルガン］を使って、音量のバランスを調整します。
それぞれの音量は［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［ハープシコード］または［P.オルガン］の音色スイッチを押しているときに、マルチ・ディスプレイに表示されます。

➡ :［トランスポーズ/ファンクション］+［ハープシコード］
⇦ :［トランスポーズ/ファンクション］+［P.オルガン］

レイヤー1の音量　レイヤー2の音量

1-9 ⇄ 9-9 ⇄ 9-1

レイヤー1
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ハープシコード］を繰り返し押すと、レイヤー1の音量バランスが大きくなります。

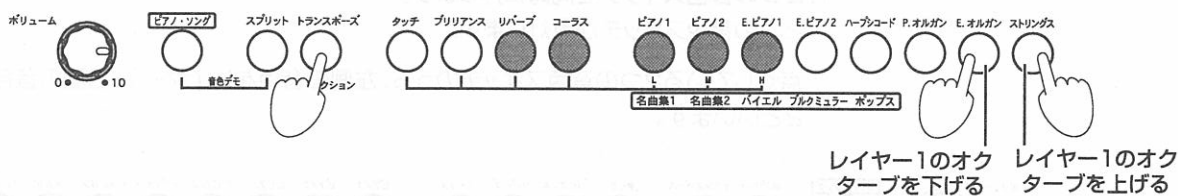
レイヤー2
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［P.オルガン］を繰り返し押すと、レイヤー2の音量バランスが大きくなります。

MeMO　この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

■2つの音色のオクターブを変えるときは

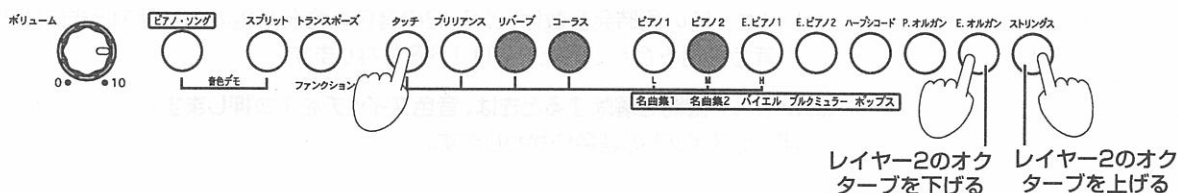
レイヤー1、2は、それぞれ±1オクターブを上下させることができます。

レイヤー1

[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、音色スイッチの[E.オルガン]を押すと、1オクターブ下がります。

[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、音色スイッチの[ストリングス]を押すと、1オクターブ上がります。

レイヤー2

[タッチ]スイッチを押しながら、音色スイッチの[E.オルガン]を押すと、1オクターブ下がります。

[タッチ]スイッチを押しながら、音色スイッチの[ストリングス]を押すと、1オクターブ上がります。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

鍵盤の左右に違う音色を設定して演奏するときは（スプリット機能）

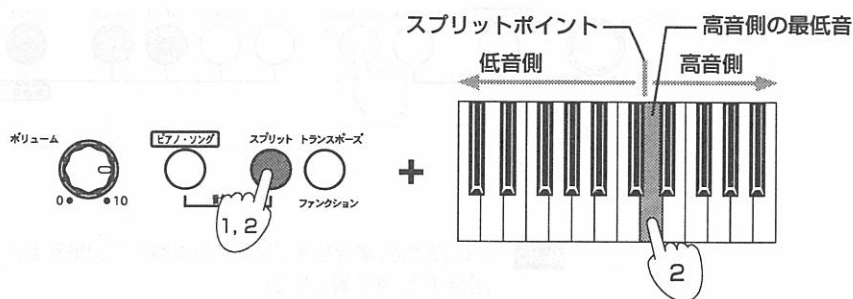
鍵盤の低音側と高音側に、それぞれ違う音色を設定して演奏することができます。これをスプリット機能といいます。

1. [スプリット]スイッチを押します。

スプリット・ポイントはF♯3になり、[スプリット]スイッチが点灯します。
低音側はベース音色になります。
高音側は[スプリット]スイッチを押す前の音色になります。F♯3は高音側になります。

MeMO レイヤー機能時に[スプリット]スイッチを押したときは、レイヤー1に選んでいた音色が高音側になります。

2. スプリット・ポイントを変更するときは、[スプリット]スイッチを押しながら、境目にする鍵盤を押します。

押した鍵盤がスプリット・ポイントになり、高音側に含まれます。

3. 音色を選びます。

高音側

音色スイッチを押して音色を選択します。
選んだ音色スイッチが点灯します。

低音側

ベース音色以外にするときは、高音側に選んだ音色の音色スイッチを押しながら、低音側に選ぶ音色の音色スイッチを押します。

音色スイッチは、高音側と低音側の両方が点灯します。

ベース音色に戻すときは、低音側に選んだ音色スイッチを押します。
低音側はベース音色に戻ります。

4. スプリット機能を解除するときは、［スプリット］スイッチを押します。
［スプリット］スイッチが消灯します。

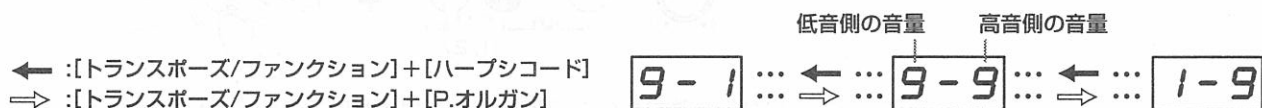
■2つの音色の音量バランスを変えるときは

選んだ2つの音色の音量バランスを調整することができます。

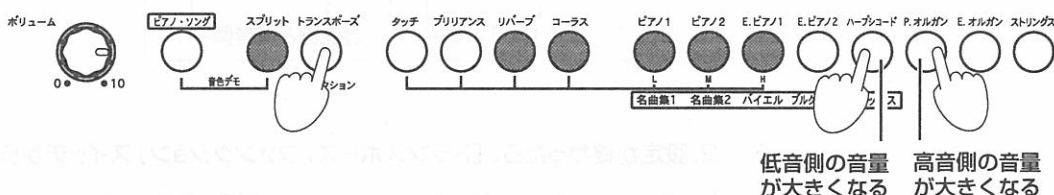
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ハープシコード］または［P.オルガン］を押して、音量のバランスを調整します。

それぞれの音量は［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［ハープシコード］または［P.オルガン］の音色スイッチを押しているときに、マルチ・ディスプレイに表示されます。

←：［トランスポーズ/ファンクション］＋［ハープシコード］
⇨：［トランスポーズ/ファンクション］＋［P.オルガン］

低音側

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ハープシコード］を繰り返し押すと、音量が大きくなります。

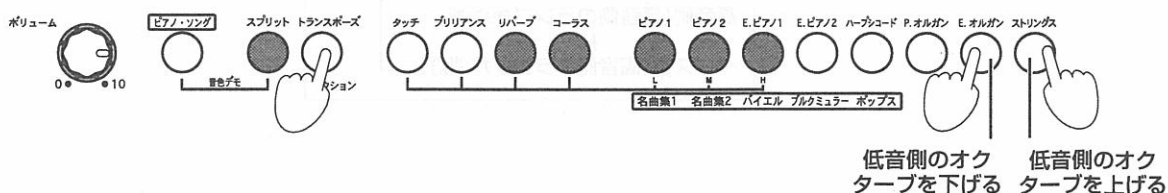
高音側

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［P.オルガン］を繰り返し押すと、音量が大きくなります。

■2つの音色のオクターブを変えるときは

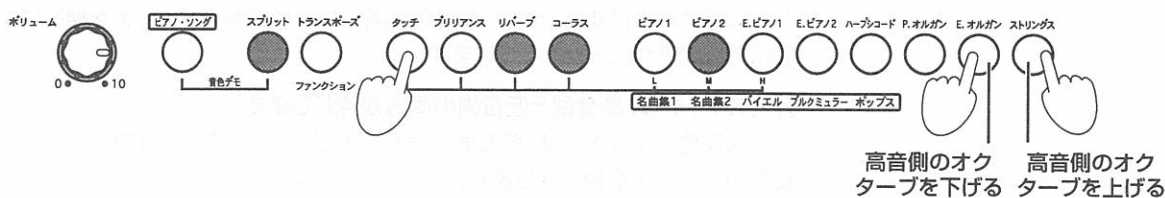
低、高音側は、±1オクターブを上下させることができます。スプリットにした直後は、それぞれの音色の組合わせで設定されているオクターブが選ばれます。

低音側

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［E.オルガン］を押すと、1オクターブ下がります。

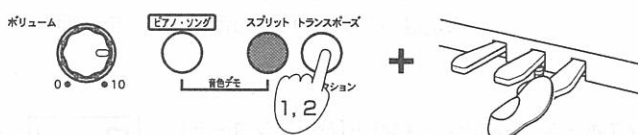
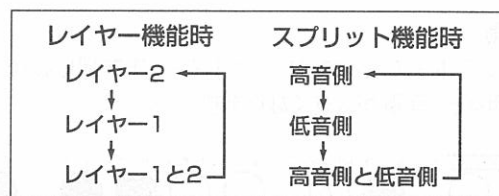
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ストリングス］を押すと、1オクターブ上がります。

高音側

［タッチ］スイッチを押しながら、音色スイッチの［E.オルガン］を押すと、1オクターブ下がります。

［タッチ］スイッチを押しながら、音色スイッチの［ストリングス］を押すと、1オクターブ上がります。

レイヤー、スプリット機能時にペダルを使う

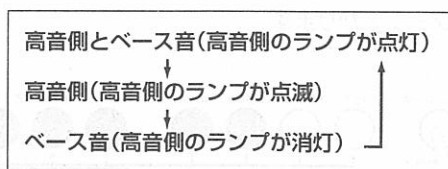
レイヤー、スプリット機能時に、ダンパー・ペダル効果をかける音色を選ぶことができます。

■レイヤー機能時、スプリット機能（低音側がベース音以外）時

1. ［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。

ダンパー・ペダルを踏むたびに、下のように効果をかける音色が替わります。
このとき、選択した音色の音色スイッチが点灯し、どの音色にダンパー・ペダルの効果をかけるのかを知らせます。

2. 設定が終わったら、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチから手を離してください。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

■スプリット機能（低音側がベース音）時

1. ［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。
ダンパー・ペダルを踏むたびに、下のように効果をかける音色が替わります。
このとき、高音側に選択した音色の音色スイッチの点灯方法が変化し、ダンパー・ペダルの効果をかける音色を知らせます。

2. 設定が終わったら、[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを離してください。

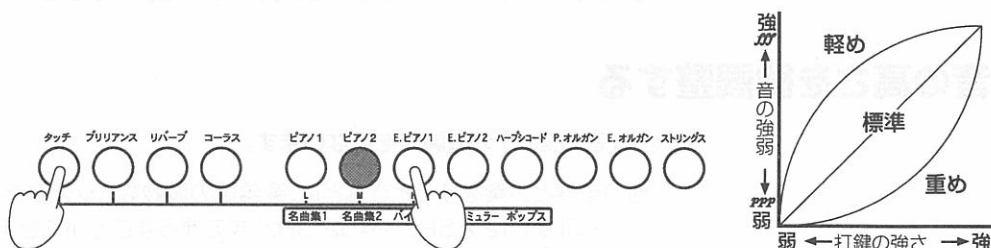
MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。

電源をオンにしたときは、普通(標準)のタッチになります。

○ **[タッチ] スイッチを押しながら音色スイッチの [ピアノ1 (L)]、[ピアノ2 (M)]、[E.ピアノ1 (H)] のうち、1つを押してタッチ感を選びます。**

[ピアノ1 (L)] または [E.ピアノ1 (H)] を選んだときは、[タッチ] スイッチが点灯します。

音色スイッチ	タッチ・コントロールの設定
ピアノ1 (L)	軽め (弱く弾いても強音が出せるタッチ)
ピアノ2 (M)	標準 (普通のピアノ・タッチ)
E.ピアノ1 (H)	重め (強く弾かないと強音が出せないタッチ)

MeMO [タッチ]スイッチを押しているときは、選ばれているタッチ・コントロールの設定が音色スイッチの点灯で確認できます。

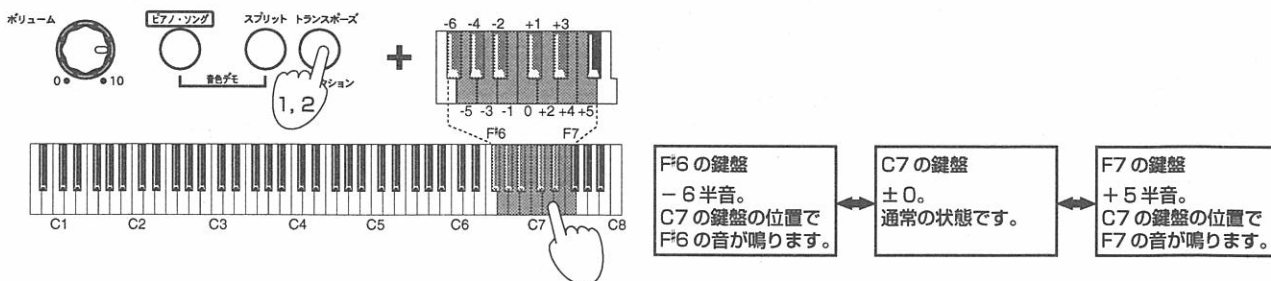
キーを変更する (移調)

キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

11半音の範囲で設定することができます。

1. **[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、F♯6〜F7から1つの鍵盤を押します。**
   C7以外の鍵を押えると [トランスポーズ/ファンクション] スイッチが点灯し、トランスポーズされたことを示します。
   押さえた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

2. **もとの設定に戻すときは、[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、C7鍵を押します。**
   または電源をオンにし直しても、もとの設定に戻ります。

いろいろな機能を使ってみましょう

■ 曲の調子を半音上げて演奏するときは

Cの鍵を押さえたときにC♯の音が鳴るようにします。

○ **［トランスポーズ／ファンクション］スイッチを押しながらC♯7の鍵盤を押します。**
半音上げたときに左の楽譜を弾くと、下の楽譜のように鳴ります。

■ キーがB♭の曲を、Gの指使いに直して演奏するときは

B♭の音は、Gの音から見て短3度の（3半音高い）音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD♯7の音が出るようにします。

○ **［トランスポーズ／ファンクション］スイッチを押しながらD♯7の鍵盤を押します。**

音の高さを微調整する

ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。

他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。
±12.5Hz（427.5Hz～452.5Hz）までずらすことができます。

1. ピッチを上げるときは、［タッチ］スイッチを押しながら［パート2］スイッチを押します。
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが高くなり、マルチ・ディスプレイに現在のピッチの下3桁が表示されます。

2. ピッチを下げるときは［タッチ］スイッチを押しながら［パート1］スイッチを押します。
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが低くなり、マルチ・ディスプレイに現在のピッチの下3桁が表示されます。

3. もとのピッチに戻すときは［タッチ］スイッチを押しながら、［パート1］と［パート2］スイッチを同時に押します。
もとのピッチ（A4=440Hz）に戻り、マルチ・ディスプレイに40.0が表示されます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」をご覧ください。

音律を選ぶ

音律が選択できます。

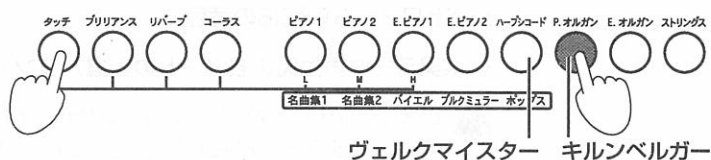
クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーとヴェルクマイスターという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の３種類の音律が選択できます。

・ **ヴェルクマイスター**
ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターIIIスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。

・ **キルンベルガー**
18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーIIIスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。

・ **平均律**
現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

■ 音律を変更するときは

○ **[タッチ] スイッチを押しながら、音色スイッチの [ハープシコード] または [P.オルガン] を押します。**

■ 平均律に戻すときは

○ **[タッチ] スイッチを押しながら、点灯している音色スイッチ ([ハープシコード] または [P.オルガン]) を押します。**
スイッチが消灯します。

MeMO 電源をオフにすると、平均律に戻ります。

MeMO ピアノ1、ピアノ2の音色では、ストレッチ・チューニングを用いています。ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

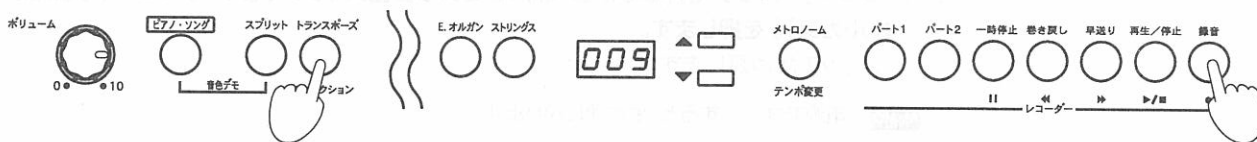
設定を記憶する

今までいろいろな設定を紹介してきましたが、以下の設定は電源をオフにしても本機内に記憶することができます。

一度の操作で、これらの現在の設定が記憶されます。

- **ブリリアンス効果**
  音色ごと(レイヤー時は音色の組み合わせごと)
- **リバーブ効果**
  音色ごと(レイヤー時は音色の組み合わせごと)
- **コーラス効果**
  音色ごと(レイヤー時は音色の組み合わせごと)
- **レイヤーの音量**
  音色の組み合わせごと
- **レイヤーのオクターブ**
  音色の組み合わせごと
- **レイヤー/スプリット時のペダル設定**
  音色の組み合わせごと
- **ピッチの微調整**
- **メトロノームの音量**
- **メトロノームの強拍の音色**
- **演奏データ再生時の各パートの音量バランス**

録音した演奏データを消去しても、演奏データ再生時の各パートの音量バランスの設定は消去されません。演奏データを録音すると、各パートの音量バランスは、すでに記憶されている設定に従いますので、必要に応じてこれらの音量バランスを設定し直したり、設定を記憶し直してください。

○ **[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながらレコーダーの[録音]スイッチを押します。**

工場出荷時の設定に戻す

音色を選んでいろいろな設定を記憶したあとで、工場出荷時(購入時)の設定に戻したいときは以下の操作を行ってください。

この操作を行うと、録音したデータは消えませんが、それ以外の設定が工場出荷時の状態に戻ります。録音したデータを消去するときは、37ページ「演奏データを消去するときは」をご覧ください。

工場出荷時の設定に戻してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

1. 電源をオフにします。

2. 鍵盤のC8(一番高いドの音)を押しながら電源をオンにします。
工場出荷時の設定に戻り、パネルのスイッチが左側から右側へ素早く点灯します。

演奏を録音/再生する

本機のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。

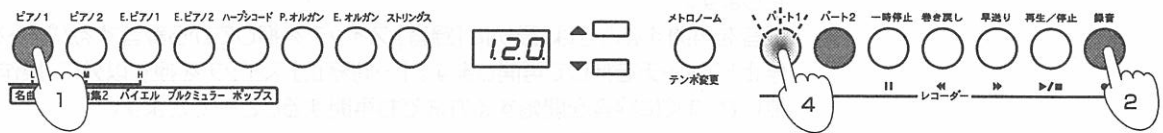
録音パートは2つあります。別の曲を録音することはもちろん、同じ曲を右手、左手で分けて録音し、2つのパートを同時に再生することもできます。

録音されているパートに録音すると、データが上書きされて、以前の演奏データは消去されますので、録音してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

MeMO 録音した演奏データは電源をオフにしたり、工場出荷時の設定に戻しても記憶されます。

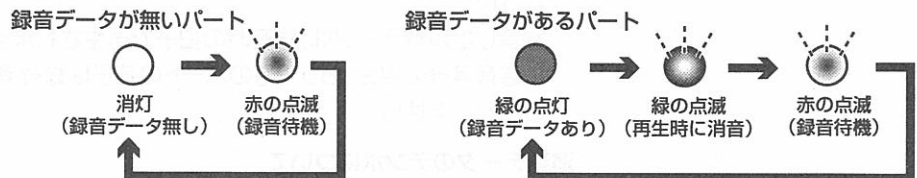
演奏を録音する

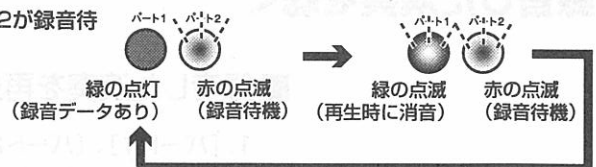
■演奏を録音するときは

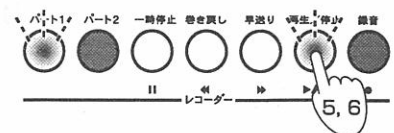
1. 音色スイッチを押して、録音時の音色を選びます。

2. レコーダーの[録音]スイッチを押します。
スイッチが点灯します。

3. [パート1]、[パート2]スイッチの点灯で、パートの録音状態を確認してください。
すでに録音されているときは、スイッチが緑の点灯になります。

4. 録音するパートを1つ選び、そのスイッチを押し、赤の点滅にします。
赤の点滅は録音待機の状態です。

MeMO パートのスイッチを何度か押すと、スイッチの点灯が以下のように切り替わります。

2つのパートを同時に録音待機の状態に設定できません。
1つのパートが録音待機の場合、他のパートにデータが無いときは、そのスイッチを押しても変化しません。しかし、他のパートにデータがあるときは、そのスイッチを押すと再生と消音が切り替わります。

例 パート1に録音データがあり、パート2が録音待機状態のとき

5. [再生/停止]スイッチを押します。
2小節のカウント後に録音が始まり、録音するパートのスイッチが点滅から点灯にかわります。

また、以下の方法によりカウント無しで、すぐに録音を開始することができます。
・鍵盤を弾く
・ペダルを踏む
・音色を切りかえる
・4で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信(☞p.38)する。

録音中は［再生/停止］スイッチが拍子に合わせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色に点滅します。

録音中に録音可能な領域が1%以下になると［録音］スイッチが点滅をはじめます。録音可能な領域がいっぱいになった時点で録音は自動的に止まります。

録音中に900小節を超えると［録音］スイッチが点滅をはじめます。998小節を超えた時点で録音は自動的に止まります。

ペダル設定の変更の情報（☞p.28「レイヤー、スプリット機能時にペダルを使う」）および、オクターブの設定は、録音することができません。

MeMO メトロノームを鳴らしながら（☞p.15）、テンポに合わせて録音することができます。

6. 録音を終えるときは、［再生/停止］スイッチを押します。

録音したデータを本機のメモリーへ保存している間は、［録音］スイッチが点滅します。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。

録音を途中で中断するときは

録音中に［一時停止］スイッチを押す（スイッチが点灯）と、録音を中断し、その位置で一時停止します。

録音を再開するときは、最初に［録音］スイッチを押してから録音するパートを選び、［一時停止］スイッチを押して再開します。［一時停止］スイッチを押す以外に、操作5.のカウント無しで、すぐに録音を開始する方法でも再開することもできます。

MeMO 一時停止後に録音を再開する場合、つなぎめがきれいに録音されないことがあります。うまくつないで録音するときは、36ページ「録音した後半を録音しなおす」ご覧ください。

演奏データに音色も記録するときは

録音が始まる前の2小節のカウント中に音色スイッチを押すことで、演奏データに音色情報を記録できます。また、録音中でも音色を切りかえながら録音すると、音色の切りかえもデータとして記録され、再生するときに音色が切りかわります。

演奏データの拍子について

録音途中で拍子をかえるときは、一時停止して拍子をかえたい小節に移動して変更してください。

録音した演奏データは、録音時の拍子で再生されます。ただし、どちらかのパートがすでにに録音済みの場合、もう一方のパートの拍子は録音済みのパートの拍子になり、変更することができません。

演奏データのテンポについて

通常、録音した演奏データにはテンポは記録されません。再生時にテンポを調整してください。ただし、録音中にテンポを変更すると、その位置でテンポが記録され、再生時にはテンポをかえた位置で、録音時のテンポに自動的に切りかわり再生されます。

録音した演奏を聴く

■録音した演奏を再生するときは

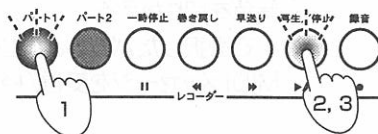
1. ［パート1］、［パート2］スイッチの点灯で、パートの録音状態を確認してください。

録音されているときは、緑の点灯になります。

録音されていないパートは点灯しません。

録音されているパートは一度押すと緑の点滅になりそのパートを再生しないようにできます。

2. ［再生/停止］スイッチを押すと、再生が始まります。

再生時は、［再生/停止］スイッチが拍子に合わせて点滅します。1拍目は赤色、その他の拍は緑色です。

再生時は、現在点灯中の音色スイッチの音になりますが、音色を切り替えることもできます。

音色が記録されている場合は、自動的にその音色で演奏されますが、再生中に音色スイッチで音色を切りかえることもできます。

音色を切りかえながら録音した演奏を再生すると、現在点灯中の音色スイッチの音に戻らず、切りかわったままの音色になりますが、音色スイッチで音色を切りかえることもできます。

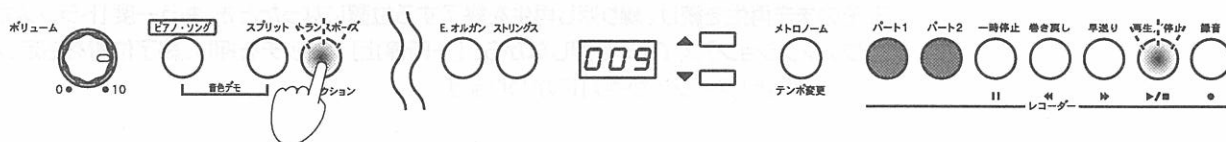
3. 再生を終えるときは、[再生/停止]スイッチを押します。
再生が終わり、自動的に最初の小節に戻ります。

再生中に[一時停止]スイッチを押す（スイッチが点灯）と、再生を一時停止することができます。再生を再開するときは、[一時停止]スイッチを押します。

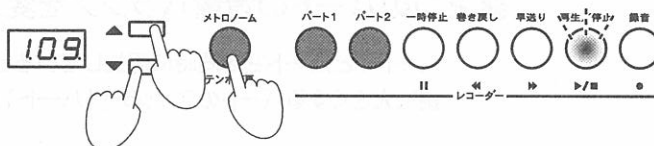
録音したデータをすべて再生し終えると、自動的に停止して、[再生/停止]スイッチが消灯します。このとき、自動的に最初の小節に戻ります。

■ 演奏を繰り返して再生するときは

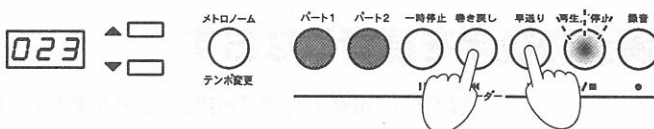
録音した曲全体を、繰り返して再生させることができます。

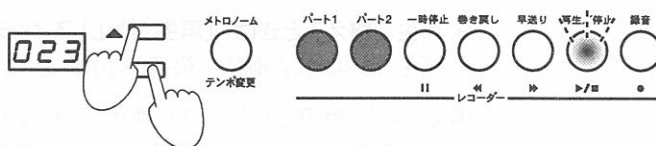
○ **再生中に[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押します。**
[トランスポーズ/ファンクション]スイッチが点滅し、再生を繰り返します。

再生を停止するときは、[一時停止]または、[再生/停止]スイッチを押します。このとき、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチが消灯し、再生の繰り返しも解除されます。

■ 再生している演奏のテンポを変える

○ **マルチ・ディスプレイにテンポが表示されてないときは、[メトロノーム]スイッチを長押し（1秒以上）してテンポを表示した後[▲]、[▼]スイッチで、再生している演奏のテンポを変えることができます（☞p.15）。**
マルチ・ディスプレイには、現在再生中のテンポが表示されます。
メトロノームの音を出さずにテンポを変えるときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら、[▲]、[▼]スイッチで設定してください。

MeMO　録音中にテンポを変更した演奏では、テンポをかえた位置で自動的に、録音時のテンポに切りかわり再生されます。

■ 早送り、巻き戻し

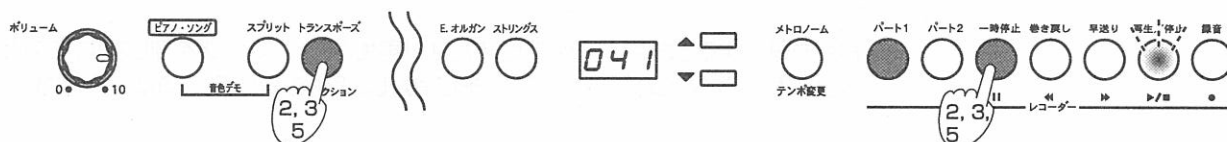
○ **再生中または停止、一時停止のときに[早送り]スイッチを押している間（スイッチ点滅）、3倍速で再生します。また、[巻き戻し]スイッチを押している間（スイッチ点滅）、3倍速で逆再生します。**
マルチ・ディスプレイには、現在再生中の小節位置が表示されます。

■ 小節移動

○ **再生中または停止、一時停止のときなどに、マルチ・ディスプレイに小節位置が表示されている場合は、[▲]、[▼]スイッチを押して小節間の移動ができます。**
このときに、[▲]、[▼]スイッチを同時に押すと先頭の小節（001）に移動できます。

■ 任意の位置を指定してリピート再生するときは（ABリピート機能）

再生の開始位置と終了位置を指定しリピート練習をすることができます。

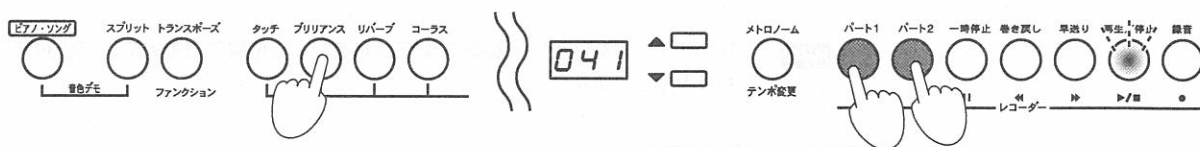
1. **「録音した演奏を再生するときは」の手順で再生を始めます。**

2. **再生中に、繰り返し再生を開始する位置になったとき、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、[一時停止]スイッチを押し、開始位置を指定します。**
[一時停止]スイッチが点滅になります。

3. **そのまま再生を続け、繰り返し再生を終了する位置になったとき、もう一度[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、[一時停止]スイッチを押し、終了位置を指定します。**
[一時停止]スイッチが点灯にかわります。

4. **自動的に2.で設定した開始位置に戻り、指定した開始位置と終了位置の区間を、繰り返し再生します。**

5. **指定区間の再生を解除するときは、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、[一時停止]スイッチを押します。**
[早送り]、[巻き戻し]、[一時停止]、[再生/停止]スイッチを押して解除することもできます。

■ 2つのパートの音量バランスを変えるときは

○ **パート1とパート2を同時に再生しているときに、[ブリリアンス]スイッチを押しながら、音量を大きくするパートのスイッチ（[パート1]または[パート2]スイッチ）を何回か押します。**

もとに戻すときは、[ブリリアンス]スイッチを押しながら、[パート1]スイッチと[パート2]スイッチを同時に押してください。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、32ページ「設定を記憶する」を参照してください。

録音した演奏の後半を録音しなおす

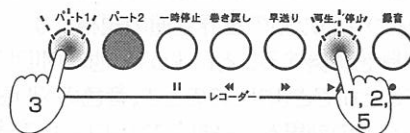
録音した演奏の任意の位置から後を新たに録音しなおすことができます。

1. **[再生/停止]スイッチを押し、再生をはじめます。**

2. **録音しなおす数小節前で［録音］スイッチを押し、録音待機状態にします。**
このとき、［録音］スイッチが点灯します。

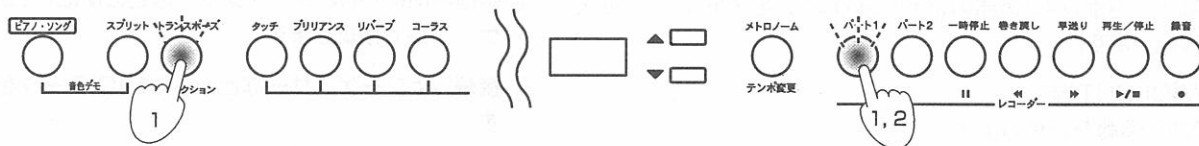
3. **録音しなおす位置になるまでの間に録音しなおすパートのスイッチを何度か押して、赤の点滅にします。**

4. **録音しなおす位置にななったら、以下の操作を行い録音を開始します。**
・**鍵盤を弾く**
・**ペダルを踏む**
・**音色を切りかえる**
・**4で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信（☞p.38）する。**
録音が開始されると、録音しなおすパートのスイッチが赤の点滅から点灯に変わります。

5. **録音を終えるときは、［再生／停止］スイッチを押します。**
録音したデータを本機のメモリーへ保存している間は、［録音］スイッチが点滅します。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。

MeMO 録音中に［一時停止］スイッチを押す（スイッチが点灯）と、録音を終了しその位置で一時停止します。

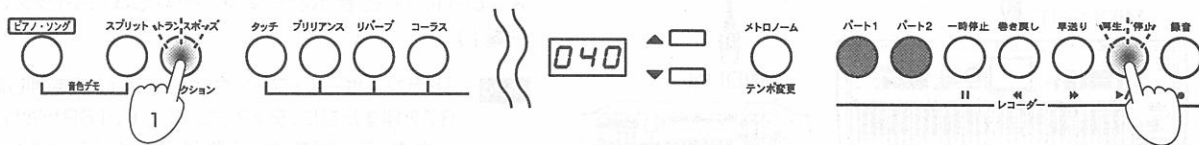
演奏データを消去する

■演奏データを消去するときは

1. **再生の停止時に、［トランスポーズ／ファンクション］スイッチを押しながら、データを消したいパートのスイッチを押します。**
［トランスポーズ／ファンクション］スイッチが点滅、パートのスイッチが赤と緑の交互に点滅し、演奏データ消去の待機状態になります。

演奏データ消去の待機状態を解除するときは、ここで［トランスポーズ／ファンクション］スイッチを押します。

2. **操作1.で押したパートのスイッチを再び押します。**
消去中はスイッチが早く点滅します。点滅が終わると演奏データは消去されます。

■録音可能なデータ残量を知りたいときは

○**レコーダーがの停止しているときに［トランスポーズ／ファンクション］スイッチと［再生／停止］スイッチを同時に押し続けます。**

押している間、マルチ・ディスプレイに録音可能なデータ残量が%表示されます。

残量が100パーセントのときは、録音できる音数が約14000、または録音できる小節が998小節の状態です。

MeMO 残しておきたい演奏データは、市販のデータファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。（☞p.41）

MIDI

MIDI（ミディ）とは?

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。
本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールできます。
また、他のMIDIキーボードやシーケンサー（自動演奏装置）から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。その他には、本機のレコーダーのデータを保管するときに、MIDIを使って行います。
ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、わかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

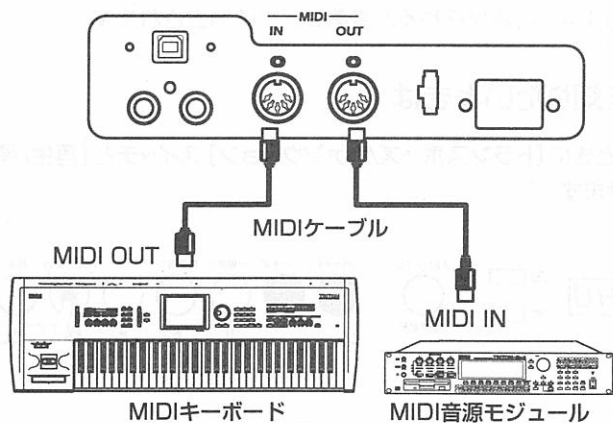
MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、市販のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

MIDI IN端子

MIDI情報を受信します。
外部MIDI機器（MIDIキーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDI OUT端子

MIDI情報を送信します。
本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDIチャンネル

接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

電源をオンにした直後は、自動的にパート1がチャンネル1に、パート2がチャンネル2に設定されます。

○ **パート1のチャンネルを設定するときは、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、鍵盤A7を押します（☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」）。**
鍵盤を押している時に、マルチ・ディスプレイに設定したMIDIチャンネルが表示され、鍵盤A7を押すたびにチャンネルが1つずつ上がります。
また、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、鍵盤G7を押すと、押すたびにチャンネルが1つずつ下がります。
パート1のMIDIチャンネルを設定すると、パート2は自動的に設定され、パート1のMIDIチャンネルに+1したものになります。ただし、パート1でMIDIチャンネルを16に設定したときは、パート2のMIDIチャンネルは1になります。

マルチティンバー音源として使う

本機の電源を入れたときは、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート・マルチティンバー音源として動作します。

1. **本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどからのMIDIデータを受信します。**
接続するシーケンサーなどの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定できます。

マルチティンバー音源を解除するときは、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤B7を押し、マルチ・ディスプレイに1Pと表示させます（☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」）。

MeMO　[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤B7を押すたびに、ディスプレイに1P、16Pが繰り返し表示されます。ディスプレイに16Pと表示されているときはマルチティンバー音源として動作します。

⚠ マルチティンバー音源として使用する場合、本機のパネル上で選択している音色を、設定しているMIDIチャンネルのデータで鳴らすことはできません。

ローカルオン/オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合は、本機をローカルオフに設定します。

通常はローカルオンに設定し、鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されます。

○ **[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら音色スイッチの[ピアノ1]を押します(☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」)。**
押すたびにオン/オフが切り替わります。

ローカルオン	[ピアノ1]のスイッチ点灯
ローカルオフ	[ピアノ1]のスイッチ消灯

プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えたり、接続したMIDI機器から、本機のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えます。

○ **音色スイッチで音色を選ぶと、表のように00～99のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。**

プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、次の表のように、本機のマルチティンバーの音色が切り替わります。

本機は、00～99のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より100以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

シングル	PC#	音色
	00	ピアノ1
	01	ピアノ2
	02	E.ピアノ1
	03	E.ピアノ2
	04	ハープシコード
	05	P.オルガン
	06	E.オルガン
	07	ストリングス
レイヤー	**PC#**	**音色(レイヤー1、レイヤー2)**
	08	ピアノ1、ピアノ2
	09	ピアノ1、E.ピアノ1
	10	ピアノ1、E.ピアノ2
	11	ピアノ1、ハープシコード
	12	ピアノ1、P.オルガン
	13	ピアノ1、E.オルガン
	14	ピアノ1、ストリングス
	15	ピアノ2、E.ピアノ1
	16	ピアノ2、E.ピアノ2
	17	ピアノ2、ハープシコード
	18	ピアノ2、P.オルガン
	19	ピアノ2、E.オルガン
	20	ピアノ2、ストリングス
	21	E.ピアノ1、E.ピアノ2
	22	E.ピアノ1、ハープシコード
	23	E.ピアノ1、P.オルガン
	24	E.ピアノ1、E.オルガン
	25	E.ピアノ1、ストリングス
	26	E.ピアノ2、ハープシコード
	27	E.ピアノ2、P.オルガン
	28	E.ピアノ2、E.オルガン
	29	E.ピアノ2、ストリングス
	30	ハープシコード、P.オルガン
	31	ハープシコード、E.オルガン
	32	ハープシコード、ストリングス
	33	P.オルガン、E.オルガン
	34	P.オルガン、ストリングス
	35	E.オルガン、ストリングス
スプリット	**PC#**	**音色(低音側、高音側)**
	36	ピアノ1、ピアノ2
	37	ピアノ1、E.ピアノ1
	38	ピアノ1、E.ピアノ2
	39	ピアノ1、ハープシコード
	40	ピアノ1、P.オルガン
	41	ピアノ1、E.オルガン
	42	ピアノ1、ストリングス
	43	ピアノ2、ピアノ1
	44	ピアノ2、E.ピアノ1

スプリット	PC#	音色（低音側、高音側）
	45	ピアノ2、E.ピアノ2
	46	ピアノ2、ハープシコード
	47	ピアノ2、P.オルガン
	48	ピアノ2、E.オルガン
	49	ピアノ2、ストリングス
	50	E.ピアノ1、ピアノ1
	51	E.ピアノ1、ピアノ2
	52	E.ピアノ1、E.ピアノ2
	53	E.ピアノ1、ハープシコード
	54	E.ピアノ1、P.オルガン
	55	E.ピアノ1、E.オルガン
	56	E.ピアノ1、ストリングス
	57	E.ピアノ2、ピアノ1
	58	E.ピアノ2、ピアノ2
	59	E.ピアノ2、E.ピアノ1
	60	E.ピアノ2、ハープシコード
	61	E.ピアノ2、P.オルガン
	62	E.ピアノ2、E.オルガン
	63	E.ピアノ2、ストリングス
	64	ハープシコード、ピアノ1
	65	ハープシコード、ピアノ2
	66	ハープシコード、E.ピアノ1
	67	ハープシコード、E.ピアノ2
	68	ハープシコード、P.オルガン
	69	ハープシコード、E.オルガン
	70	ハープシコード、ストリングス
	71	P.オルガン、ピアノ1
	72	P.オルガン、ピアノ2
	73	P.オルガン、E.ピアノ1
	74	P.オルガン、E.ピアノ2
	75	P.オルガン、ハープシコード
	76	P.オルガン、E.オルガン
	77	P.オルガン、ストリングス
	78	E.オルガン、ピアノ1
	79	E.オルガン、ピアノ2
	80	E.オルガン、E.ピアノ1
	81	E.オルガン、E.ピアノ2
	82	E.オルガン、ハープシコード
	83	E.オルガン、P.オルガン
	84	E.オルガン、ストリングス
	85	ストリングス、ピアノ1
	86	ストリングス、ピアノ2
	87	ストリングス、E.ピアノ1
	88	ストリングス、E.ピアノ2
	89	ストリングス、ハープシコード
	90	ストリングス、P.オルガン
	91	ストリングス、E.オルガン
	92	ベース、ピアノ1
	93	ベース、ピアノ2
	94	ベース、E.ピアノ1
	95	ベース、E.ピアノ2
	96	ベース、ハープシコード
	97	ベース、P.オルガン
	98	ベース、E.オルガン
	99	ベース、ストリングス

プログラムチェンジ・キャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

○ **[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、音色スイッチの[ピアノ2]を押します（☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」）。**

押すたびにキャンセル、イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[ピアノ2]のスイッチ点灯
キャンセル	[ピアノ2]のスイッチ消灯

プログラムチェンジ・キャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジ・キャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、電源をオフにしない限り、1chのプログラムチェンジ・キャンセルの設定は記憶されています。

コントロールチェンジ・キャンセル

本機のダンパーペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して、本機をコントロールできます。
これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

○ **[トランスポーズ/ファンクション]スイッチを押しながら、音色スイッチの[E.ピアノ1]を押します（☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」参照）。**

押すたびにキャンセル、イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[E.ピアノ1]のランプ点灯
キャンセル	[E.ピアノ1]のランプ消灯

コントロールチェンジ・キャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジ・キャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、電源をオフにしない限り、1chのコントロールチェンジ・キャンセルの設定は記憶されています。

外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更（☞p.28「レイヤー、スプリット機能時にペダルを使う」）に関係なく、レイヤー、スプリット機能でも、つねに両方の音色に対して有効となります。

レコーダーのデータを保存するには（データダンプ）

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー（記憶装置）に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

データファイラーの取扱説明書をよく読んで、データを消してしまわないように十分注意してください。

演奏データをデータファイラーに保存します

1. MIDIケーブルで、本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INを接続します。

2. データファイラーを操作して、本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。

3. 本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［E.ピアノ2］スイッチを押します（☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」）。

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチと［E.ピアノ2］スイッチが点滅し、データダンプ送信待ちの状態になります。

操作を中止するときは、本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押します。

4. ［再生/停止］スイッチを押します。

データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間は、［再生/停止］スイッチが点滅します。

送信が終了すると、［再生/停止］スイッチが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

データダンプ送信待ちの状態や、データファイラーに演奏データを送信している間は、本機から音が出ません。データの送信が終りデータファイラーにデータが記録されると、通常の演奏できる状態に戻ります。

演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します

1. MIDIケーブルで、本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTを接続します。

2. 本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、音色スイッチの［E.ピアノ2］スイッチを押します（☞p.53「スイッチ、鍵盤機能一覧」参照）。

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチと［E.ピアノ2］スイッチが点滅し、データダンプ受信待ちの状態になります。

操作を中止するときは、本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押します。

3. データファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいた本機の演奏データを送信します。データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください。

本機が演奏データを受信します。受信中には［録音］スイッチが点滅します。

演奏データの受信が終了すると、［録音］スイッチが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。

データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音が出ません。データの受信が終り、演奏データが本機のレコーダー内に元どおりに正しく収まると、通常の演奏できる状態に戻ります。

MIDI

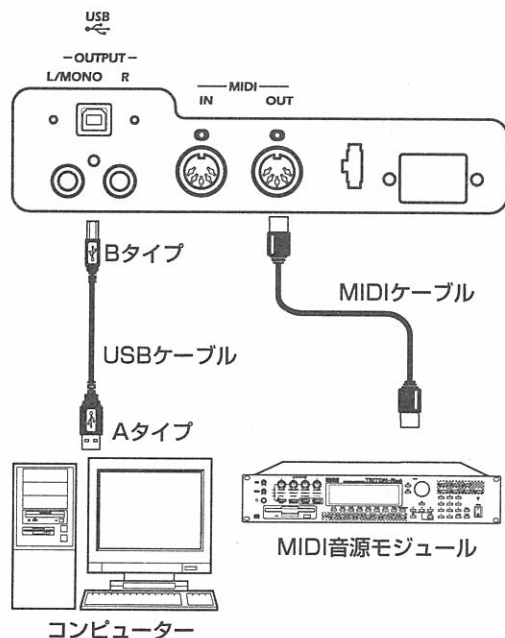
USBとは?

Universal Serial Busの略で、コンピューターと周辺機器でデータをやりとりするためのインターフェイスです。
本機はUSB端子を搭載しています。直接コンピューターと接続することにより、大切な演奏データをコンピューターに保存したり、コンピューターから読み込んだりできます。また、シーケンサー・ソフトウェアを使い本機を演奏させたり、本機の演奏をコンピューターに録音することもできます。

 演奏データは本機独自のフォーマットです。オーディオ・データとしてコンピューターなど本機以外で再生や編集することはできません。再生するためには本機にリストアをしてください。

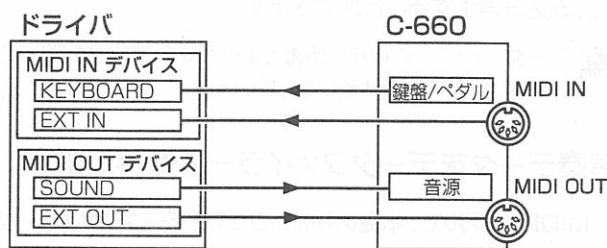
 本機に外部ハードディスク、CD-R/RWドライブなどのUSB周辺機器を接続することはできません。

USBの接続

USBケーブルで本機とコンピューターを接続します。市販のUSBケーブルを用意してください。
用意するケーブルは片方がAタイプ、もう片方がBタイプのオスのソケットになっているものです。USB接続の場合は、コンピューターの電源を入れたままで接続できます。
本機のUSB端子にUSBコネクターを接続します。コンピューターのUSB端子にもう片方のUSBコネクターを接続します。

MeMo 本機はUSB MIDIインターフェイスとしても使用できます。MIDI OUT端子にMIDI音源などを接続すると、そのままコンピューターとMIDI音源とのやり取りも行えます。

 USB接続時には、MIDI OUT端子からはUSBからのデータを送信します。本機が送信する鍵盤などのMIDIメッセージは、MIDI OUT端子からは出力されません。

本機とドライバのポートについて

本機のUSB MIDIは、ドライバ(コンピューター)側から見ると2-IN/2-OUTになります。

■ MIDI INデバイス

KEYBOARD

本機の各コントローラーからのMIDIメッセージが入力されます。
コンピューターのアプリケーションを本機で操作したい場合に、アプリケーションのリモートコントロールのMIDI入力設定でこのポートを選択してください。

EXT IN

本機のMIDI IN端子に入力されたMIDIメッセージをこのポートに出力します。外部シーケンサーのMIDIメッセージをコンピューターのアプリケーションに送信したいときなど、本機をUSB MIDIインターフェイスとして使用する場合に、アプリケーションのMIDI入力設定でこのポートを選択してください。

■ MIDI OUTデバイス

SOUND

ソフトウェアで出力したMIDIメッセージを本機の音源に送信します。

EXT OUT

ソフトウェアが出力したMIDIメッセージをそのまま本機のMIDI OUT端子へ送信します。
コンピューターのアプリケーションのMIDIメッセージを外部機器に送信したいなど、本機をUSB MIDIインターフェイスとして使用する場合に、アプリケーションのMIDI入力設定でこのポートを選択してください。

本機のMIDI端子について

■ USB接続されていないとき

MIDI IN端子

通常MIDIメッセージを本機の音源に送信します。

MIDI OUT端子

本機の鍵盤などのコントローラーのMIDIメッセージを送信します。

■ USB接続されているとき

MIDI IN端子

受信した内容をそのままEXT INへ送ります。

MIDI OUT端子

EXT OUTから出力した内容をそのまま送信します。本機の各コントローラーからのメッセージは送信しません。

USB-MIDIドライバのインストールと設定

Windows XPをお使いの場合

OSにWindows XPを使用したコンピューターには、付属のKORG USB-MIDI Driver for Windows XPを使うことができます。

本機を初めてコンピューターのUSBポートに接続すると、自動的に Windows標準のUSB MIDIドライバがインストールされます。KORG USB-MIDI Driver for Windows XPを使用するときは、以下の手順でドライバをインストールしなおしてください。

本製品のソフトウェアの使用許諾契約が別途に付属されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこの使用許諾契約をお読みください。ソフトウェアをインストールすると、この契約に同意したことになります。

付属のCD-ROMは、一般オーディオ用プレイヤーでは絶対に再生しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。またヘッドホンをご使用になる場合、大音量によって耳に障害を被ることがあります。

KORG USB-MIDI Driver for Windows XPはWindows XP専用です。Windows95/98/Me/2000では使用できません。

■ KORG USB-MIDI Driver for Windows XPのインストール

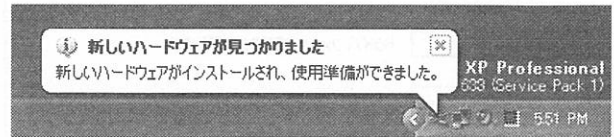
制限付きアカウントでログオンしている場合は、Windows XPへのドライバをインストールおよびアンインストールできません。コンピューターの管理者グループに属するユーザーでログオンするか、管理者に相談してください。

デジタル署名によるドライバのインストールの抑制を行なわないようにしておいてください(☞ p.45「デジタル署名の認証によるドライバのインストールの抑制を回避するには」)。

ドライバのインストールはＵＳＢのポートごとに必要です。KORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールしたときとは異なる別のUSBポートに本機を接続して使用する場合は、同様の手順で新たにKORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールしなおしてください。

1. 本機の電源を入れて、本機とPCをUSBケーブルで接続します。

Windowsが本機の接続を認識します。

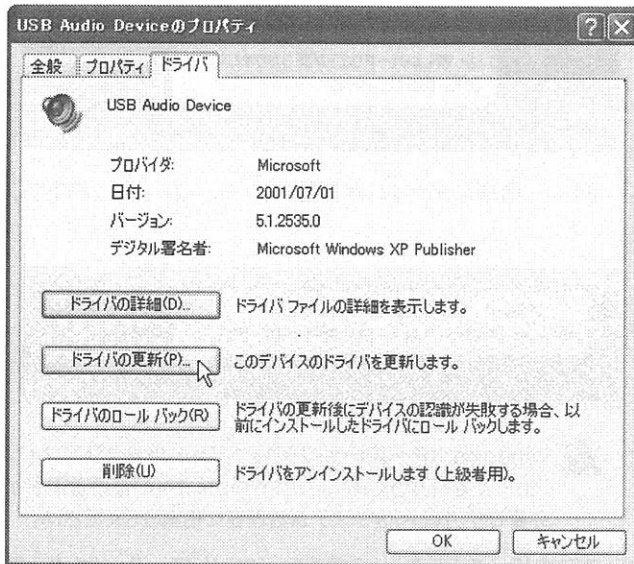
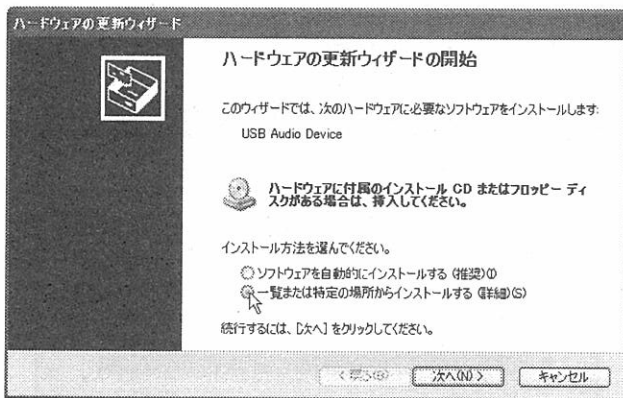
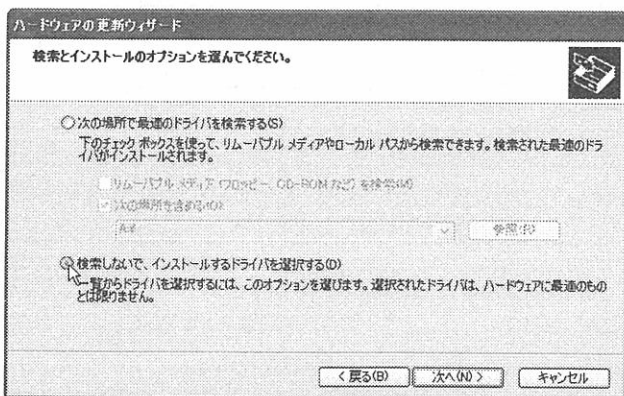
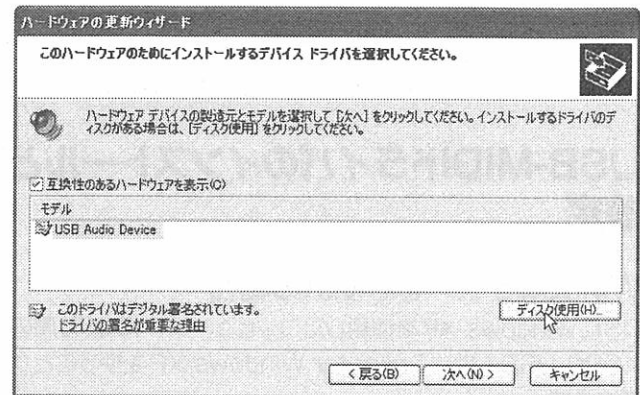
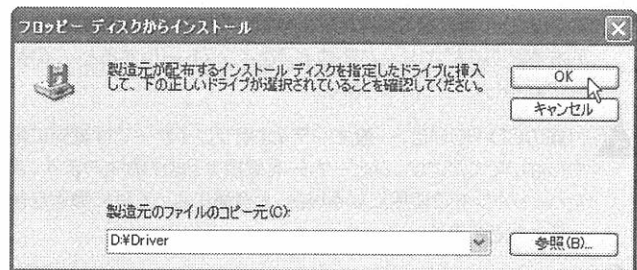
そして、標準のドライバが自動的にインストールされます。

Windows XPへのドライバのインストールおよびアンインストールを行なうためにはAdministratorの管理者権限が必要です。詳しくはシステム管理者に相談してください。

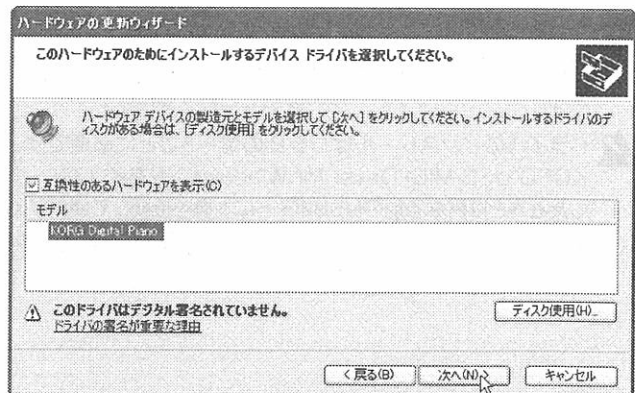
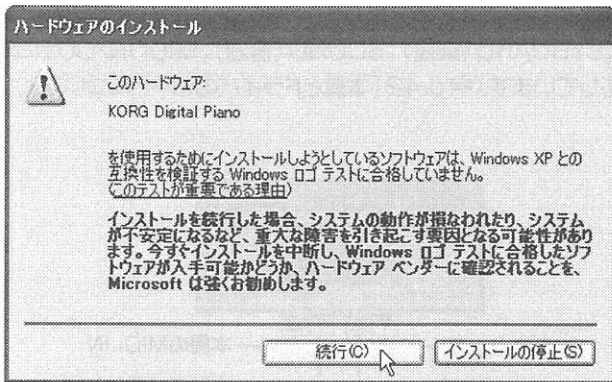
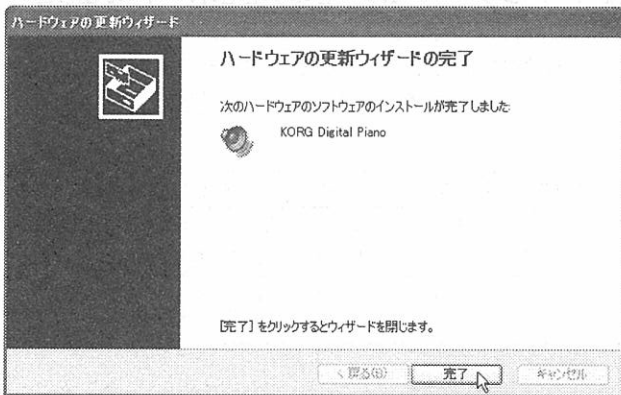
2. タスクバーの[スタート]ボタン、[コントロール パネル]の順にクリックし、コントロールパネルを表示させます。

3. コントロールパネルの中の[サウンドとオーディオデバイス]を起動し、[ハードウェア]タブをクリックします。

4. デバイスのリストから[USB Audio Device]を選択し、リスト下の「デバイスのプロパティ」の項目の“場所”にKORG DIGITAL PIANOが表示されていることを確認し、[プロパティ...]ボタンをクリックします。

USB

5. 「USB Audio Deviceのプロパティ」ダイアログが表示されるので、[ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新...]ボタンをクリックします。

6. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。
「インストール方法を選んでください。」では"一覧または特定の場所からインストールする"をクリックし、[次へ >]をクリックします。

7. "検索とインストールのオプションの選択"では、必ず「検索しないで、インストールするドライバを選択する」をクリックし、[次へ >]をクリックします。

8. "このハードウェアのためにインストールするデバイス ドライバを選んでください。"と表示されるので、[ディスク使用]ボタンをクリックします。

9. フォルダ名を求めてくるので、本機付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、KORG USB-MIDI Driver for Windows XPの入っているフォルダ"D:¥Driver"を入力し[OK]ボタンをクリックします。

ただし、これはCD-ROMドライブがDドライブの場合であり、お使いのコンピューターの環境に合わせて、CD-ROMドライブがEドライブの場合には上記フォルダ名の"D:"を"E:"のように変更して入力してください。

10. モデルにKORG Digital Pianoが表示されていることを確認し[次へ >]をクリックするとドライバのインストールが始まります。

11. 途中デジタル署名認証の警告ダイアログが表示される場合がありますが、[続行]をクリックして先に進めます。

12. インストール完了のダイアログが表示されるので[完了]をクリックします。Windowsの再起動を求められた場合には、[はい]を選んで再起動させてください。

■ KORG USB-MIDI Driver for Windows XPのアンインストール

1. タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックして表示させせます。

2. コントロール パネルの中の[サウンドとオーディオデバイス]を起動し、[ハードウェア]タブをクリックします。

3. デバイスのリストからKORG Degital Pianoを選択し、[プロパティ...]ボタンをクリックします。

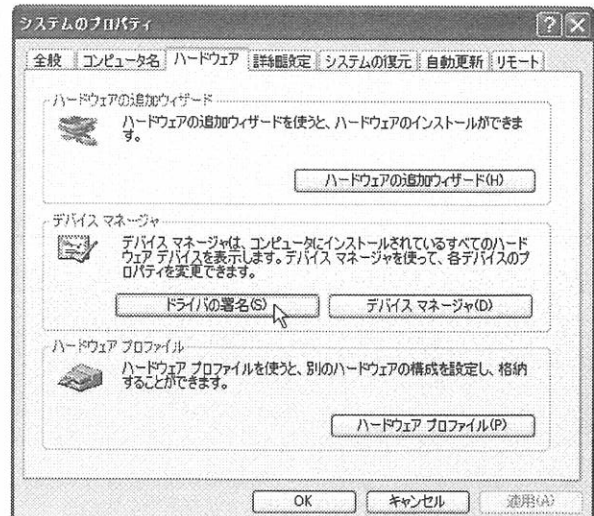
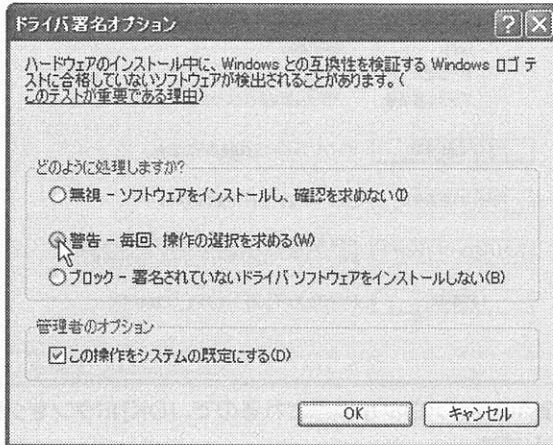
4. 「KORG Digital Pianoのプロパティ」ダイアログが表示されるので、[ドライバ]タブをクリックし、[削除]ボタンをクリックします。

5. 確認のダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

■ デジタル署名の認証によるドライバのインストールの抑制を回避するには

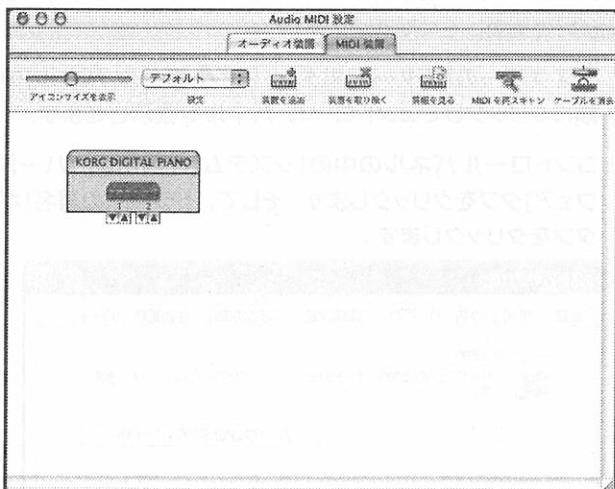
お使いのコンピューターが、デジタル署名の無いドライバをインストールできないように設定されている場合は、KORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールすることができません。以下の方法でドライバをインストールできるように設定を変更してください。

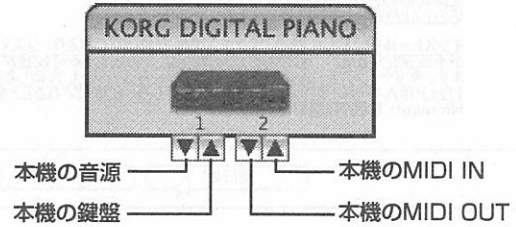
1. タスクバーの[スタート]ボタン、[コントロール パネル]の順にクリックしてコントロール パネルを表示させせます。

2. コントロールパネルの中の[システム]を起動し、[ハードウェア]タブをクリックします。そして、[ドライバの署名]ボタンをクリックします。

3. “どのように処理しますか?”で[ブロック]が選択されていると、ドライバをインストールすることができません。[無視]または[警告]を選び、[OK]をクリックします。
必要があれば、ドライバをインストール後、この設定を元に戻してください。

Mac OS Xをお使いの場合

お使いのコンピューターがMac OS Xの場合は、Mac OS X標準のMIDIドライバを使用します。

 Mac OS X 10.2以降で有効です。

1. 本機とコンピューターをUSBケーブルで接続します。
2. 本機の電源を入れます。
3. アプリケーション・フォルダ→ユーティリティ・フォルダの中の“Audio MIDI設定”をダブルクリックして開きます。
4. “MIDI装置”タブをクリックして、本機が表示されていることを確認します。

■ Mac OS X標準のMIDIドライバのポートについて

ドライバ側(コンピューター側)のポート1、ポート2は、本機のKEYBOARD(鍵盤)、SOUND(音源)、MIDI IN/OUTに対応しています(☞p.42「本機とドライバのポートについて」)。

■ アプリケーション側の入力ポートの設定

本機でDAWなどのアプリケーションをコントロールする場合、本機の鍵盤からMIDIメッセージを受信するには、アプリケーション側の入力ポートをポート1(Port1)に設定します。

本機での呼称名		アプリケーションでの表示
入力	KEYBOARD	(MIDI入力設定に表示される)Port1
	EXT IN	(MIDI入力設定に表示される)Port2
出力	SOUND	(MIDI出力設定に表示される)Port1
	EXT OUT	(MIDI出力設定に表示される)Port2

故障とお思いになる前に

電源が入らない

- 電源コードを本体に差し込んでいますか?
- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか?
- 電源スイッチがオンになっていますか?(☞p.9)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、コルグ･サービス･センターにご相談ください。

音が出ない

- 本機の[ボリューム]ツマミが"0"になっていませんか?(☞p.10)
- ヘッドホン端子にプラグが差し込まれていませんか?
- 選んでいるパートが再生されるように設定していますか?(☞p.33)
- 選んでいるパートに、演奏データは録音されていますか?(☞p.33)
- 選んでいるパートが消音になっていませんか?(☞p.33)
- ローカルオンになっていることを確認してください。(☞p.39)

音が途切れてしまう

- 最大同時発音数を超えています。
  前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的に鳴らす仕組みになっているため、最大同時発音数を超えると音が切れてしまいます。
  ピアノ2とスプリット用ベースの音色は、最大同時発音数が64音ですが、そのほかの音色は2つのデータを使用しているため、最大同時発音数が32音になります。
  ダンパーペダルを使用するとき、レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、複数音色を使用して録音したデータを再生するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

ペダルの効果が正しくかからない

- ペダル用コネクターがはずれていませんか?(☞p.50)
- レイヤー、スプリット時に思い通りの効果が得られないときは、もう一度設定をやり直してください。(☞p.28)

録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか?(☞p.37)

途中から録音しなおすと、録音した部分だけテンポや拍子が違う

- 録音をしなおすときと、その前の録音時のテンポや拍子と同じ設定にしましたか?
  本機は、最後に録音したときのテンポや拍子を記録するので、録音し直した部分はそのときのテンポや拍子に書き換えられます。(☞p.34)

録音パート1と2で別々のテンポや拍子で再生できない。

- 本機は、パート1と2のテンポは拍子は共通で使用します。また、拍子は最初に録音されたパートの拍子で再生されます。(☞p.34)
- パートで別々のテンポや拍子の曲を録音したときは、再生時にテンポや拍子の合ってないパートの設定を変えてください。(☞p.35)

送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。(☞p.38)
- 受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。(☞p.38)

USB-MIDI Driver for Windows XPがインストールできない(Windows XPをお使いの場合)

- USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。(☞p.42)
- CD-ROMがCDドライブに正しく入っているか確認してください。
- CDドライブのレンズが汚れていませんか?
  市販のレンズ･クリーナーでクリーニングしてください。
- ネットワークのCDドライブからインストールしていませんか?
  ネットワークで接続されているCDドライブからはインストールできません。
- USBが使用可能になっているか確認してください。
  Windows XPの場合、[コントロール パネル]の[システム]、[ハードウェア]タブ、[デバイス マネージャ]でユニバーサル シリアル バスコントロール、USB ルートハブを確認してください。

● 不明なデバイスとして認識されていませんか?
Windows XPの場合、[コントロール パネル]の[システム]、[ハードウェア]タブ、[デバイス マネージャ]で確認します。正しく認識されない場合は、本機が「その他のデバイス」の中に表示されたり、「不明なデバイス」と表示されます。USBケーブルを再接続し、新たに「不明なデバイス」と表示された場合は、本機が不明なデバイスとして認識されています。表示された「不明なデバイス」を削除し、ドライバをインストールし直してください。(☞p.43)

ソフトウェアが反応しない

● USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。(☞p.42)

● ドライバをインストールしましたか?

● 接続したコンピューターに本機が認識されているか確認してください。
Windows XPの場合は、コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」、ハードウェアで確認してください。
Mac OS Xの場合は、Macintosh HD→アプリケーション・フォルダー→ユーティリティ・フォルダー→ "Audio MIDI設定" の "MIDI装置" タブ・ページで本機が認識されているかを確認してください。

ご使用になるコンピューターのハードウェア環境によっては、USB接続で本機を認識できないことがあります。

● 本機のアサイン設定とUSB MIDIポートの設定を確認してください。(☞p.42)

● 接続している機器やソフトウェアが、本機の機能に対応していない場合があります。接続している機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照し、確認してください。

仕様

鍵盤	88鍵(A0〜C8)、RH3(リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション3)鍵盤
音色	9音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリック・ピアノ1、エレクトリック・ピアノ2、ハープシコード、パイプ・オルガン、エレクトリック・オルガン、ストリングス、ベース(スプリット時)
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	64音
効果	リバーブ(3段階)、コーラス(3段階)、ブリリアンス(3段階)
レコーダー	2パート、最大14,000ノート テンポ/メトロノーム、録音、再生/停止、一時停止、早送り、巻き戻し、パート1、パート2
キーボード・モード	シングル、レイヤー、スプリット
音律	3種類 (平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター)
タッチ・コントロール	3段階(ライト、ノーマル、ヘビー)
コントロール	[POWER]スイッチ、[ボリューム]ツマミ、[スプリット]スイッチ、[トランスポーズ/ファンクション]スイッチ、[タッチ]スイッチ、[ブリリアンス]スイッチ、[リバーブ]スイッチ、[コーラス]スイッチ、音色スイッチ(8)、[メトロノーム]スイッチ、[ピアノ・ソング]スイッチ
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート (*印: ハーフ・ペダル対応)
接続端子	ヘッドホン×2、OUTPUT(L/MONO、R)、MIDI(IN、OUT)、USB
メイン・アンプ	20W×2
スピーカー	13cm×2、3.5cm×2
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	55W
外形寸法(W×D×H)	1398×467×896(mm) (スタンド込みで、譜面立てをたたんだ状態)
重量(スタンド含)	54.9 kg(スタンド込み)
付属品	専用スタンド、電源コード、ヘッドホン、高低自在椅子、楽譜集、CD-ROM

※仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・Sound Processed with INFINITY™

スタンドの組み立て方法

警告

● 必ず２人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

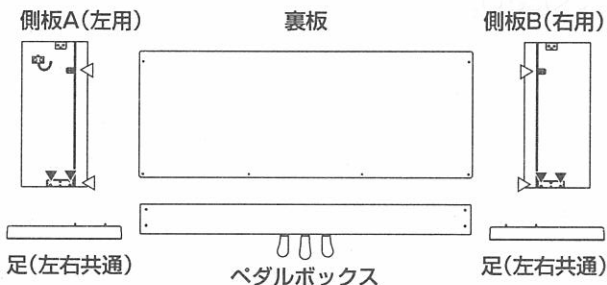
正しく組み立てるために、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

組み立て方法

お手持ちの**プラスのドライバー**を用意してください。

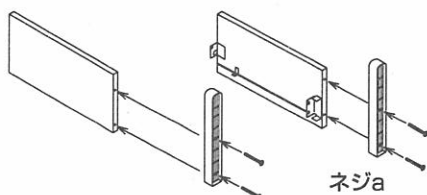
1. 箱を開けて部品を取り出します。

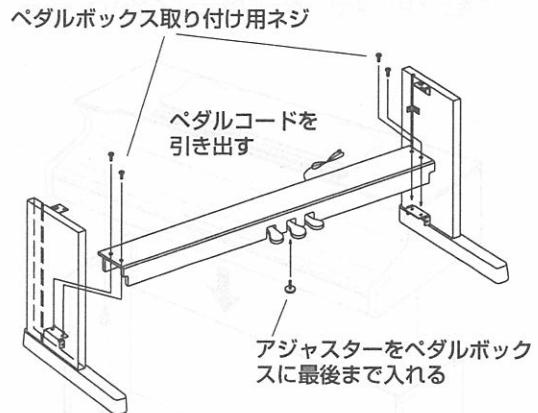
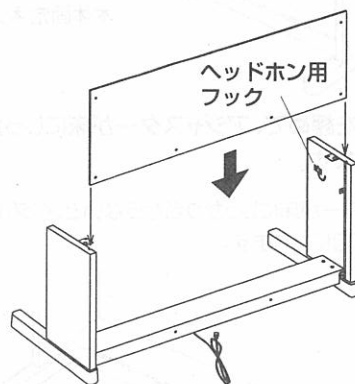
下記の部品が揃っていることを確認してください。

▼：ペダルボックス取り付け用ネジ（M6×20）×4本
◁：裏板取り付け用ネジ（M4×14）×4本

ビニール袋詰め

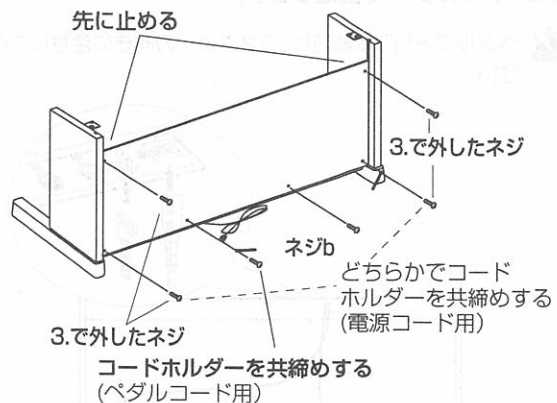
ネジa (M6 x 60) ...4本	ネジb (M4 x 14) ...2本	キャップ ...4個
コードホルダー ...2本	本体固定ネジ...2本	アジャスター ...1個

2. ネジaで、側板AとBに足を取り付けます。

足の2つの突起部分を、側板の穴にそれぞれ合わせてください。

3. 側板の金具に止めてある、ペダルボックス取り付け用ネジ４本と、裏板取り付け用ネジ４本を外します。

ペダルボックス取り付け用ネジで、2.で組んだ側板をペダルボックスに仮止めします。

4. 側板の溝に裏板をはめ込みます。

5. 裏板を3.で外した裏板取り付け用ネジとネジbで、仮止めします。

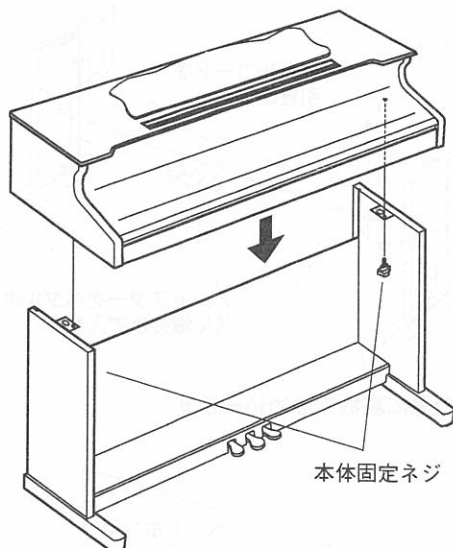
先に裏板の上側（2ヶ所）を止めます。

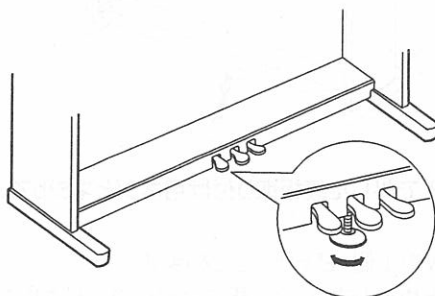
下側を止めるときは、2ヶ所でネジにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。

6. スタンドに隙間や傾きがないことを確認し、すべてのネジをしっかりと固定してください。

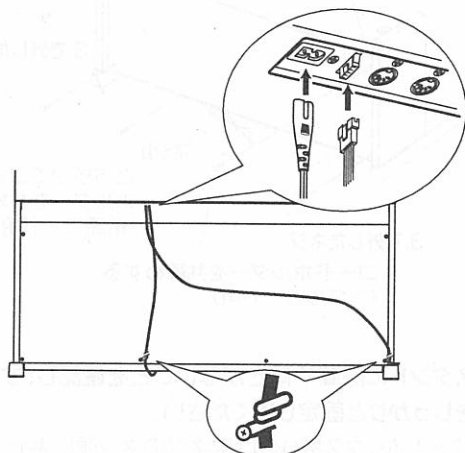
ペダルボックス取り付け用ネジのネジ頭にキャップをかぶせます。

7. 本体を取り付けます。

本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、本体固定ネジで、下方から固定します。

本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。

8. アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。

アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。

9. ペダルコードと電源コードを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。

ペダルコードの接続時は、コネクターの向きに注意してください。

組立後のチェック

❏ 部品は余っていませんか?
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。

❏ 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- **ネジの緩みについて**
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。

- **移動について**
デジタル·ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。

- **分解について**
スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

ピアノ・ソング・リスト

名曲集1(楽譜付き)

No.	曲名	作者
1	プレリュード(平均律第1巻 第1番より)	J.S.バッハ
2	インベンション 第1番	J.S.バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J.S.バッハ
4	ソナタK.545 第1楽章	W.A.モーツァルト
5	トルコ行進曲(ソナタ K.331より)	W.A.モーツァルト
6	エリーゼのために	L.v.ベートーヴェン
7	「悲愴」第2楽章	L.v.ベートーヴェン
8	乙女の祈り	T.バダジェフスカ
9	アラベスク Op.100-2(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
10	スティリアの女 Op.100-14(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
11	貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
12	春の歌 Op.62-6(無言歌集第6巻より)	F.メンデルスゾーン
13	トロイメライ Op.15-7	R.シューマン
14	荒野のばら	G.ランゲ
15	紡ぎ歌	A.エルメンライヒ
16	人形の夢と目覚め	T.オースティン
17	亜麻色の髪の乙女	C.ドビュッシー
18	アラベスク 第1番	C.ドビュッシー
19	プレリュード(ベルガマスク組曲より)	C.ドビュッシー
20	ゴリィウォーグのケークウォーク	C.ドビュッシー
21	月の光	C.ドビュッシー
22	ワルツ 第6番 変二長調「小犬」Op.64-1	F.ショパン
23	ワルツ 第7番 ホ短調 Op.64-2	F.ショパン
24	ノクターン 第2番 Op.9-2	F.ショパン
25	マズルカ第5番 Op.7-1	F.ショパン
26	幻想即興曲 Op.66	F.ショパン
27	別れの曲 Op.10-3	F.ショパン
28	黒鍵のエチュード	F.ショパン
29	プロムナード(展覧会の絵より)	M.P.ムソルグスキー
30	ジムノペディ第1番	E.サティ
31	ジュ・トゥ・ヴ	E.サティ
32	愛の挨拶	E.エルガー

名曲集2

No.	曲名	作者
1	楽しき農夫	R.シューマン
2	すみれ	R.ストリーボッグ
3	メヌエット ト長調	J.S.バッハ
4	ガボット	J.S.バッハ
5	ソナチネ作品 op.20-1 第1楽章	FR. Kuhlau
6	ソナチネ作品 op.55-1 第1楽章	FR. Kuhlau
7	ソナチネ作品 op.36-1 第1楽章	M.Clementi
8	ピアノソナタ第20番 ト長調 第1楽章	L.v.ベートーヴェン
9	月光(第1楽章)	L.v.ベートーヴェン
10	ト調のメヌエット	L.v.ベートーヴェン
11	アンダンテ	J.Haydn
12	楽興の時	F.P.シューベルト
13	狩人の歌 (op.19-No.3)	F.メンデルスゾーン

バイエル(全訳バイエルピアノ教則本)

No.		備考
1	thema, var.1～12	パート1に先生のパート パート2に生徒のパート(右手)
2	thema, var.1～8	パート1に生徒のパート(左手) パート2に先生のパート
3...106		生徒のパート(両手)

ブルクミュラー(25の練習曲)

No.	曲名	作者
1	すなおな心	J.F.ブルクミュラー
2	アラベスク	J.F.ブルクミュラー
3	パストラル(牧歌)	J.F.ブルクミュラー
4	小さなつどい	J.F.ブルクミュラー
5	無邪気	J.F.ブルクミュラー
6	進歩	J.F.ブルクミュラー
7	清らかな小川	J.F.ブルクミュラー
8	優しく美しく	J.F.ブルクミュラー
9	狩(かり)	J.F.ブルクミュラー
10	やさしい花	J.F.ブルクミュラー
11	せきれい	J.F.ブルクミュラー
12	別れ	J.F.ブルクミュラー
13	コンソレーション(なぐさめ)	J.F.ブルクミュラー
14	シュタイヤー舞曲(アルプス地方の踊り)	J.F.ブルクミュラー
15	バラード	J.F.ブルクミュラー
16	ちょっとした悲しみ	J.F.ブルクミュラー
17	おしゃべりさん	J.F.ブルクミュラー
18	気がかり	J.F.ブルクミュラー
19	アヴェ・マリア	J.F.ブルクミュラー
20	タランテラ	J.F.ブルクミュラー
21	天使の合唱	J.F.ブルクミュラー
22	バルカロール(舟歌)	J.F.ブルクミュラー
23	再会	J.F.ブルクミュラー
24	つばめ	J.F.ブルクミュラー
25	乗馬	J.F.ブルクミュラー

MeMO 音色デモと同じ曲が、異なった曲名になっている部分がありますが、この一覧表では一般的に市販されている楽譜集の曲名に合わせています。

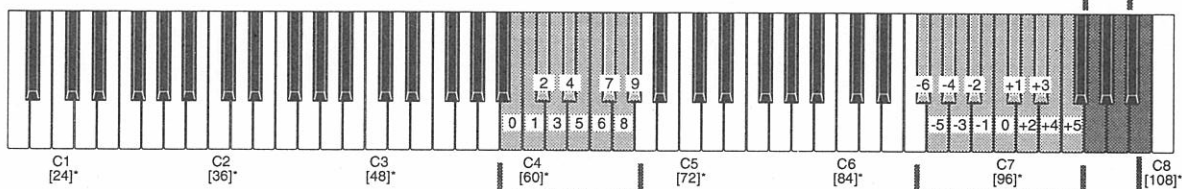
ポップス

No.	曲名	アーティスト
1	Summer	久石譲
2	世界に一つだけの花	SMAP
3	さくら	森山直太郎
4	冬のソナタ	RYU
5	涙そうそう	夏川りみ
6	いつも何度でも(千と千尋の神隠し)	木村弓
7	戦場のメリークリスマス	坂本龍一
8	ラヴィン・ユー	ミニー・リパートン
9	Cry for the Moon	ザ・スクウェア
10	やさしく歌って	ロバータ・フラック
11	アメイジンググレイス	Traditional
12	This Masquerade	ラッセル・レオン
13	嵐が丘	ケイト・ブッシュ
14	わが心のジョージア	ホーギー・カーマイケル
15	スペイン	チック・コリア
16	エンターティナー	スコット・ジョプリン

スイッチ、鍵盤機能一覧

	ピアノ1	ピアノ2	E.ピアノ1	E.ピアノ2	ハープシコード	P.オルガン	E.オルガン	ストリングス
	L	M	H					
トランスポーズ +	MIDIの設定(☞p.38～41) ローカル ON/OFF	プログラム チェンジ	コントロール チェンジ	データダンプ	音量の設定* (☞p.25、27) レイヤー1 / 低音側の音量を大きく	レイヤー2 / 高音側の音量を大きく	オクターブの設定* (☞p.26、27) レイヤー1 / 低音側のオクターブを下げる	レイヤー1 / 低音側のオクターブを上げる
タッチ +	鍵盤のタッチ感(☞p.29) ライト	ノーマル	ヘビー		音律の設定(☞p.31) ヴェルク マイスター	キルンベルガー	オクターブの設定* (☞p.26、27) レイヤー2 / 高音側のオクターブを下げる	レイヤー2 / 高音側のオクターブを上げる
ブリリアンス +	音の明るさの設定(☞p.13) やわらかい	標準	明るい				デモ演奏時の音量(☞p.20) ミュート・パートの音量を下げる	ミュート・パートの音量を上げる
リバーブ +	リバーブ効果の設定(☞p.13) 浅い	標準	深い					
コーラス +	コーラス効果の設定(☞p.14) 浅い	標準	深い					
メトロノーム +	拍子の設定(☞p.15) 弱拍のみ	2拍子	3拍子	4拍子	6拍子	メトロノームの強拍の音(☞p.15) 通常の音	ベルの音	

* レイヤー機能/スプリット機能時の設定

	パート1	パート2	一時停止	巻き戻し	早送り	再生／停止	録音
トランスポーズ +	演奏データの消去(☞p.37) パート1を消去	パート2を消去				メモリー残量 (☞p.37)	設定の記憶 (☞p.32)
タッチ +	ピッチの設定(☞p.30) 下げる	上げる					
ブリリアンス +	パートの音量バランス(☞p.36) パート1を大きく	パート2を大きく					
メトロノーム +	メトロノームの音量(☞p.15) 小さく	大きく					

テンポの数値入力例----テンポを86にするには
パネルの[メトロノーム]スイッチを押しながら
鍵盤B3、G4、F4(0、8、6)を順番に押します。

[デジタルピアノ]
C-660

MIDIインプリメンテーション・チャート

2004.10.10

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1—16	1 1—16	
モード:	電源ON時 メッセージ 代用	 × **************	3 ×	
ノート ナンバー:	 音域	15—113 **************	0—127 21—108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1—127 ×	○ 9n, V=1—127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー:		×	×	
コントロール チェンジ:	7 11 64 66 67 91, 93 120 121	○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ボリューム ＊1, ＊4 エクスプレッション ＊1, ＊4 ダンパー・ペダル ＊1, ＊3 ソステヌート・ペダル ＊1 ソフト・ペダル ＊1, ＊3 リバーブ・センド、コーラス・センド ＊1, ＊4 オールサウンド・オフ リセット・オールコントロール
プログラム チェンジ:	 設定可能範囲	0—99 **************	0—99 0—99	＊2
エクスクルーシブ:		○	○	デバイス・インクワイアリ シーケンス・データ・ダンプ
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム:	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× ○ ○ ×	○ ○123—127 ○ ×	

備考:
＊1 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する
＊2 プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する
＊3 ハーフダンパー出力値(0、38、74、127)
＊4 シーケンス・データのみ送信する

モード1: オムニオン、ポリ　モード2: オムニオン、モノ　○: あり
モード3: オムニオフ、ポリ　モード4: オムニオフ、モノ　×: なし

※ MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

アフターサービス

■保証書
本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間
お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理
保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理
修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に
故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い
修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について
アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!
この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口　TEL 03(3799)9086

●サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1
明正大井5号営業所コルグ物流センター内　TEL 03(3799)9085

KORG 株式会社コルグ
本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
URL: http://www.korg.co.jp/

KORG Ⓙ②
1701 GH *Printed in Japan*